

履修ガイド 2026

看護学群

MYU CURRICULUM GUIDE

School of Nursing

Department of Nursing



はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での4年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任をもって行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からなかったりするとき等に、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

I. 宮城大学カリキュラムの全体像	06
① 宮城大学の教育目標	06
② 宮城大学の教育基本方針	06
③ 学群・学類について	07
II. 総論	09
① 入学から卒業までの基本的な流れ	09
② 学群とキャンパスについて	09
③ 学年および休業日・学期・時間割について	09
(1) 学年・学期および休業日	09
(2) 時間割	09
④ 学籍と在学期間について	10
(1) 学籍の異動	10
(2) 修業年限および休学期間の限度、在学年限	10
⑤ 単位について	11
(1) 単位の計算基準	11
(2) 卒業要件単位数	11
(3) 単位認定について	11
⑥ 履修登録について	11
⑦ 授業について	12
(1) 授業科目	12
(2) シラバス（授業計画書）	12
(3) 授業への欠席および遅刻	12
(4) 休講	12
(5) 補講	12
(6) 授業評価アンケートについて	12
⑧ 成績の評価方法について	12
(1) 試験	13
(2) レポート・制作物等の提出方法	13
(3) 追試験	13
(4) 再試験	13
(5) 成績評価	13
(6) GPA 制度	14
(7) 不正行為について	14
(8) 成績発表について	15
(9) グローバルコミュニケーション科目の 受験資格の認定について	15
⑨ 進級について	15
⑩ 学類の決定・履修コースの選択について	16
(1) 学類の決定	16
(2) 履修コースの選択	16
⑪ 転学群・転学類およびコース変更について	16
(1) 転学群・転学類について	16
(2) コース変更について	16
⑫ 卒業認定・学位授与について	16
⑬ 学修支援について	16
(1) 教員に相談したいとき	16
(2) 職員に相談したいとき	17
(3) 学生相談室、保健室について	17
(4) 合理的配慮について	17
⑭ その他	17
(1) 大学からの連絡	17
(2) 学生保険について	18
(3) 経済的支援について	18

III. 履修登録	19
① 履修登録とは	19
② 履修登録の手順	19
(1) 事前作業	19
(2) 履修登録	19
(3) 履修登録修正・取消	19
(4) 時間割の保存	20
(5) 履修登録科目の確定	20
③ 履修登録上の注意点	20
(1) 履修登録可能な単位数の上限	20
(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止	20
(3) 集中講義科目の日程確認	20
(4) その他	20
④ 科目ナンバリング	20
(1) 科目ナンバリングとは	20
(2) 付番方法	20
IV. 全学共通科目ほか	22
① 地域連携実践教育プログラムについて	22
(1) 地域連携実践教育プログラムとは	22
(2) 単位	22
(3) プログラムの考え方および特色	23
(4) 履修方法および履修手続等	23
② 他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について	25
(1) 他学群または他学類の履修について	25
(2) 単位認定に係る申請について	25
(3) 単位認定された授業科目の 本学開講科目との振替について	26
(4) 振替できない科目の 卒業要件単位数への算入について	26
(5) 単位認定を受けた授業科目の 成績表記について	27
③ 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度	27
(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは	27
(2) 単位互換制度の申請方法	27
④ 学外研修・グローバルインターンシップ	28
(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは	28
(2) 科目の履修方法	28
V. 基盤教育科目について	30
① フレッシュマンコアとは	31
② 基盤教育科目の9つの科目分野	33
(1) 導入科目	33
(2) 情報統計	33
(3) 芸術・人文学	33
(4) 人間科学	33
(5) 社会科学	33
(6) グローバルコミュニケーション	33
(7) 自然科学	33
(8) 実践基礎	33
(9) 全学共通科目	33
③ 留学生対象科目	34
④ 教育課程の一覧	34

VI. 看護学群について	37
① 看護学群看護学類の4年間の学びの流れ	37
(1) 看護学群での学びとキャリア	37
(2) 看護学群でのキャリア開発支援	38
(3) 看護学類の教育目標	39
(4) 看護学類のカリキュラムマップ	40
(5) 看護学類の科目関連図	41
② 看護学類の科目配当	44
(1) 看護師教育課程科目配当表	44
(2) 保健師教育課程科目配当表	46
(3) 養護教諭教育課程科目配当表	48
③ 卒業に必要な単位および卒業要件	50
④ 教育課程の特色	50
(1) 看護師教育課程	51
(2) 保健師教育課程	51
(3) 養護教諭教育課程	51
(4) 災害看護プログラム	52
(5) 国際看護プログラム	52
⑤ 履修での留意事項	53
⑥ 履修モデル	54

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、心温まる人間関係（ホスピタリティ）に囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、このような地域社会を実現させるために「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

宮城大学の理念

高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、強い意志を持って実践していく。

宮城大学の目的

地域社会及び国内外の大学・研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想、食産業及びそれらの基盤となる学問に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的とする。

各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、豊かな人間性を基盤として地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	生物資源の開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学的知識と技術を持ち、豊かな人間性に基づいて食産業全体及び地域社会を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

I. 宮城大学カリキュラムの全体像

① 宮城大学の教育目標

宮城大学の理念、目的を踏まえ、主体性をもって協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

② 宮城大学の教育基本方針（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー）

(1) ディプロマ・ポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマ・ポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

ディプロマ・ポリシー	
宮城大学の大学の理念は、高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、主体性を持って協働的に行動し、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与することである。	
その理念の下、各学群の教育目標（教育研究上の目的）を定め、それを構成する要素として以下の5点を掲げる。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養と自らの専門分野を体系的に理解する知識・技術 2. 課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断力 3. 自らの考えを適切に構成し、他者に伝達する表現力 4. 自ら学び続ける意欲と高い公共性や倫理観のもとで行動する実践力 5. 他者とともに共通の目標に向かい行動する協働性 	
宮城大学では、これらに基づき各学群で求められる専門能力を修得した学生に卒業を認め、学位を授与する。	

(2) カリキュラム・ポリシーとは

「ディプロマ・ポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラム・ポリシー」といいます。

カリキュラム・ポリシー	
各学群で定める教育目標を実現するため、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの構成要素に基づき、以下の方針によりカリキュラムを体系的に編成・実施する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性ととも基礎となる学力の形成を図る基盤教育科目と、専門的な知識と技能を修得する専門教育による体系的なカリキュラムを編成する。 ・授業は、知識を体系的に獲得する講義、その知識を実践的に修得する演習・実験・実習により実施する。また、学生の主体的な学びを促進するための教育プログラムを各学群で実施する。 ・基盤教育科目は、将来にわたって明日の姿を見通すための力を身につける技法知・学問知・実践知を修得するための宮城大学共通の教育基盤として、以下の方針により編成する。また、基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のためのフレッシュマンコア科目を置く。 	
(1) 知識・技術	幅広い知識と技術を修得するため、社会科学、自然科学、芸術・人文学、人間科学、情報統計の諸種の学問領域における広範な知識・技術を修得するための科目群を置く。
(2) 思考力・判断力	科学的根拠に基づく論理的な思考・判断力を養成するために能動的な学修機会を積極的に設けるとともに、フィールドワーク等を通じて実践的な課題に取り組む学修機会を設定する。
(3) 表現力	自己表現の技術と他者とのコミュニケーション力を育成するために、発表や議論の場を積極的に設ける。またグローバルコミュニケーション科目を通じて国際的なコミュニケーション力の育成を図る。
(4) 主体性	主体的に学び続ける力を養成するために、導入科目において自らの将来を踏まえ主体的に学ぶことの意義を理解するための教育を実施する。
(5) 協働性	他者との協働性を養成するために、導入科目を中心として協働的な活動を取り入れた教育を展開する。

・学修成果は、シラバスで設定されている各授業科目の到達目標および成績評価基準に基づいて評価する。

・各学群における専門教育については、各学群のカリキュラム・ポリシーとして別に定める。

③ 学群・学類について

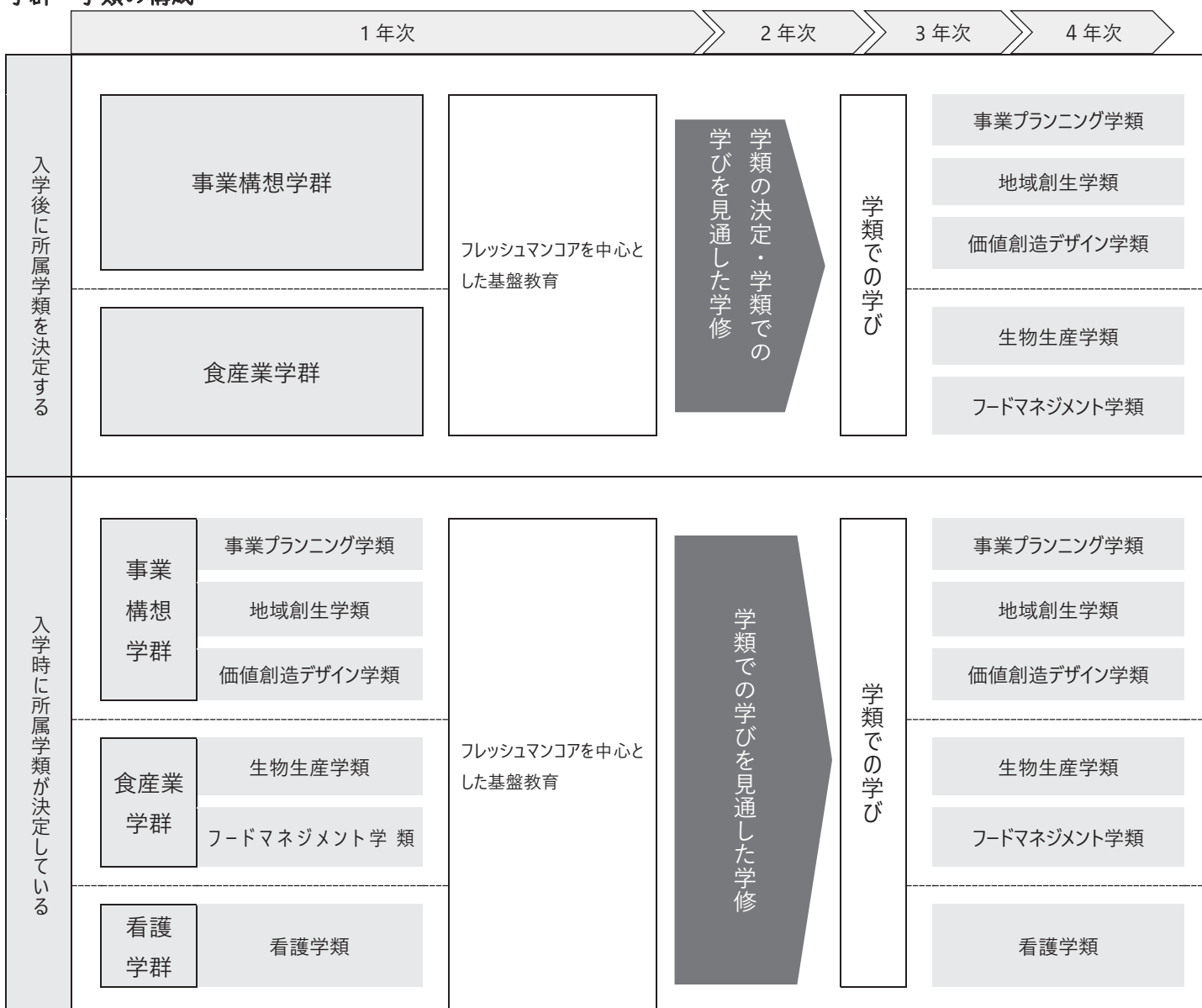
宮城大学は、学群・学類（3学群・6学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類
食産業学群	生物生産学類 フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2年次からの学びを見通し、1年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群および食産業学群では、2年次に所属する学類が決定されます（総合型選抜および外国人留学生特別選抜での入学生を除く）。入学後、1年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育科目・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成

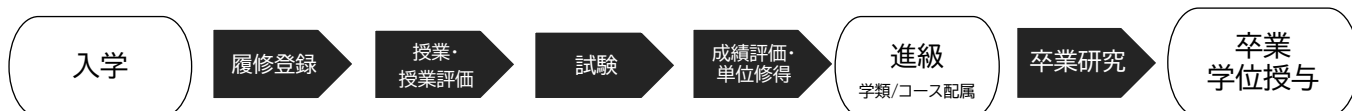


II. 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程および宮城大学学位規程に記載されています。

① 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。



② 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群およびそれぞれの研究科を設置しています。各学群および研究科は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群・研究科	看護学群・事業構想学群および研究科	食産業学群および研究科
所在地	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2丁目2番1号
電話（代表）	022-377-8205	022-245-2211

③ 学年および休業日・学期・時間割について（学則第6条、第7条、第8条）

（1）学年・学期および休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。
前期	4月1日から9月30日まで
後期	10月1日から3月31日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日5月1日
春季休業日 夏季休業日 冬季休業日	別に定めます。（春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。）

※後期の授業開始日は、10月1日より前となる場合があります。

※定期試験については、原則として前期末・後期末に期間を定めて実施しますが、科目によって実施形態が異なりますので、科目を担当する教員の指示に従ってください。

（2）時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
時刻	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

- ① 集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。
- ② 隔週開講：1週おきに開講するものです。
- ③ 指定日開講：特定の日に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

④ 学籍と在学期間について（学則第18条、第19条、第21条、第23条、第24条、第25条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

(1) 学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常どおり修業する状況を「在学」として取扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、MYUpediaを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

<MYUpedia>



(2) 修業年限および休学期間の限度、在学年限

本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

- ・ 修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- ・ 修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- ・ 在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- ・ 在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- ・ 休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4年	8年	4年

※引き続き1年を超えて休学することはできません。ただし、特別の事情がある場合は、学長の許可を得て休学期間を2年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間および在学年限については、関係規程により個々に定められます。

(例1) 在学期間4年

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	修業期間4年を満した状態		
在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	→卒業		
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>本学に在籍した期間の合計：4年</td> </tr> </table>										本学に在籍した期間の合計：4年
本学に在籍した期間の合計：4年										

(例2) 在学期間5年（※限度は8年）

1年前期	1年後期	在学	在学	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	修業期間4年を満した状態	
在学	在学	留学 (在学)	留学 (在学)	在学	在学	在学	在学	在学	在学	→卒業	
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>本学に在籍した期間の合計：5年 ※学長の許可を受けて留学する場合、在学期間に算入することができます。</td> </tr> </table>											本学に在籍した期間の合計：5年 ※学長の許可を受けて留学する場合、在学期間に算入することができます。
本学に在籍した期間の合計：5年 ※学長の許可を受けて留学する場合、在学期間に算入することができます。											

(例3) 在学期間4年（※限度は8年）・休学期間1年

1年前期	1年後期	(休学)	2年後期	2年前期	(休学)	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	修業期間4年を満した状態	
在学	在学	休学	在学	在学	休学	在学	在学	在学	在学	→卒業	
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>合計1年間休学 ※休学期間の限度は4年</td> </tr> </table>											合計1年間休学 ※休学期間の限度は4年
合計1年間休学 ※休学期間の限度は4年											
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>本学に在籍した期間の合計：5年</td> </tr> </table>											本学に在籍した期間の合計：5年
本学に在籍した期間の合計：5年											

⑤ 単位について (学則第34条、第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条、履修規程第15条、宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要項)

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

(1) 単位の計算基準

授業科目「1単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて45時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間および単位数としています。

講義	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で2単位
演習	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で1単位（2時限構成の場合2単位）
実験・実習・実技	2時限（180分）または3時限（270分）の授業15回で1単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2時限分の授業15回と事前・事後学修で2単位とします。

(2) 卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。また、卒業時には、所属学群のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）5要素について、4年間の学修成果を自己評価および教員評価します。この評価結果は、看護学群においては卒業判定の参考資料となります。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	128単位	127単位	132単位

(3) 単位認定について

- ・ 合格した科目の単位は、前期末・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。
- ・ 他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学または短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査の上、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。これらの他学群・他学類履修、他大学履修、入学前単位の履修・単位認定にかかる申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への算入などについては、詳細を「IV. 全学共通科目ほか」に記載しています。
- ・ 遠隔授業により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で卒業要件として算入できます。

⑥ 履修登録について (履修規程第3条、第4条、第5条)

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細は「Ⅲ. 履修登録」に記載しています。

⑦ 授業について

(1) 授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得することが義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

(2) シラバス（授業計画書）

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス (syllabus)」といいます。

<シラバス検索>



- ・ シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
- ・ 「学務管理システム」で参照することができます。
- ・ シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。

(3) 授業への欠席および遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。

- ・ 欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席および遅刻に対する取扱いは科目担当教員が判断します。
- ・ 学校感染症（新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等）と診断された場合、出席停止となります。出席停止の扱いを受けるためには、所定の手続きが必要です。詳細については MYUpedia を参照してください。

(4) 休講

授業が休止になることを休講といいます。休講は、学務管理システムや学内メールで連絡します。

※休講は科目担当教員の都合によるほか、気象状況や自然災害等による場合があります。気象状況や自然災害等による休講・試験の延期については、17 ページに記載されています。

(5) 補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと科目担当教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講と同様の方法で連絡します。

(6) 授業評価アンケートについて

本学では、授業をより充実したものに改善することを目的に学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内メール等で案内されますので、履修した科目について回答してください。

⑧ 成績の評価方法について（学則第 30 条、第 36 条、履修規程第 7 条、第 8 条、第 9 条、第 10 条、第 11 条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって評価され、学修到達度は、試験その他シラバス等で示された方法によって評価されます。「秀」「優」「良」および「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

(1) 試験 (履修規程第7条)

試験は、筆記試験、口述試験、実技試験または実験、実習、課題レポート等により行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生
②	試験時刻に20分を超えて遅参した学生

期末試験の日程は、試験期間前に、学務管理システムや学内メール等でお知らせするとともに、MYUpediaにも掲載します。

(2) レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。また、生成AI等の利用については、科目担当教員の指示に従うよう、留意してください。

提出方法	担当教員より提出場所や提出方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。期限後は受理されません。 なお、共有のレポートボックスは、各キャンパスで下記の場所に設置されています。	
	【大和キャンパス】 本部棟3階(看護)および4階(事業構想) 各研究ラウンジ受付付近に設置	【太白キャンパス】 管理棟1階 事務局入口付近に設置(食産業)

※所定の方法・場所とは異なる提出をされたものは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。

※指示された記載事項(所属、学籍番号、氏名、科目名等)に不備があった場合は原則として評価の対象となりませんので注意してください。

(3) 追試験 (履修規程第9条)

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は、試験終了後1週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等はMYUpediaを参照してください。

(4) 再試験 (履修規程第10条)

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験は実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は「可」が上限となります。

また、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

(5) 成績評価

成績の表示は次のとおりとし、秀、優、良および可を合格、不可を不合格とし、合格した者に所定の単位を付与します。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している
優	80点以上 90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している
良	70点以上 80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している
可	60点以上 70点未満	学修到達度が到達目標に達している
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない

また、下表の内容に該当する場合には、原則として成績評価を「不可」とします。

①	(1) 試験の①または②に該当し、試験を受験できなかった学生
②	正当な理由なく試験を受験しなかった学生
③	出席時間が、授業時間の5分の4に満たない学生

(6) GPA 制度

本学では、GPA 制度を採用しています。GPA(グレードポイント平均値)とは、各授業科目の評点に基づき、GP(グレードポイント)を付与して算出する、1単位当たりの平均値です。GPは次の式により求めた値とします。

$$GP = \frac{(\text{評点} - 55)}{10} \quad \text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0 \text{ とする。}$$

・学修状況および成果を示す指標として、「学期 GPA」「年度 GPA」「通算 GPA」の3種類を設定しています。計算式は以下の通りです(小数点第3位以下切捨て)。

① 学期 GPA の計算式

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

② 年度 GPA の計算

$$\text{年度 GPA} = \frac{(\text{その年度に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

③ 通算 GPA の計算式

$$\text{通算 GPA} = \frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

・GPAは、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。

- ア) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- イ) 本学入学前に修得した単位認定科目
- ウ) 他大学等との単位互換等で修得した科目

・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり、各GPAに算入されます。履修を取消す場合は、履修登録修正・取消期間中に所定の手続きを行ってください。

(7) 不正行為について(学則第30条、履修規程第11条)

試験において不正行為をした学生に対しては、当該学期に登録しているすべての履修科目の成績が「不可」となるほか、学則による懲戒処分を行います。

※授業の出席に関し虚偽申告を行った学生に対しては、当該科目の成績は「不可」となるほか、その不正行為の状況によっては、学則により懲戒処分を行う場合があります。

(8) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は9月末、後期は3月末に学務管理システムから確認することができます。また、評価の内容は学業成績証明書に反映されます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む10日間（土日祝日を含まない）のみ、成績質問を受け付けます。成績質問を行う場合の所定の様式や方法についてはMYUpediaを参照してください。

(9) グローバルコミュニケーション科目の授業の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では、学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査のうえ、授業の出席が一部免除されることがあります。ただし、学外の検定試験等については、申請日以前の2年以内に受験したものとなるほか、出席を一部免除された場合でも、定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。

詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問い合わせください。

⑨ 進級について（履修規程第12条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算（※）6単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次） （※1）通算とは、入学時からの累積 （※2）事業構想学群価値創造デザイン学類においては、配当年次における未修得の必修単位の通算6単位に、宮城大学履修規程別表4の授業形態が講義となっているコース必修科目の単位を含まない。	
2年次進級要件	卒業要件単位数のうち30単位以上を修得していること。	
3年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1・2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 3年次に開講されている実習（母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅、看護マネジメントの8つの領域）の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

⑩ 学類の決定・履修コースの選択について（学則第21条、履修規程第13条、第14条）

（1）学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、1年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法については、ガイダンス等で案内されます。

（2）履修コースの選択

事業構想学群価値創造デザイン学類では、専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
事業構想学群	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	2年次前期（4月）の所定の時期まで

⑪ 転学群・転学類およびコース変更について

（1）転学群・転学類について（学則第22条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述する相談窓口教員等に相談してください。転学群および転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細はMYUpediaにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

（2）コース変更について（履修規程第14条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述する相談窓口教員等に確認してください。

⑫ 卒業認定・学位授与について（学則第41条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	生物生産学類およびフードマネジメント学類	学士（食産業学）

⑬ 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、以下にご相談ください。

なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員に相談したいとき

授業については、シラバスに担当教員の連絡先等相談方法が記載されています。その他については、1年次は、スタートアップセミナーⅠ、Ⅱの担当教員が窓口となって相談を受け付けます。2年次以降は、窓口となる教員を学群・学類ごとに決めていきますので、ガイダンス等で確認してください。担当教員以外の教員も受け付けていますので、各教員へメール等で事前連絡のうえ、相談してください。

(2) 職員に相談したいとき

事務局の窓口が利用できる時間帯は、平日 8 時 30 分～17 時 50 分です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務局窓口が利用できる時間帯で行ってください。

<MYUpedia>



(3) 学生相談室、保健室について

- ・ 保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
- ・ 学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
- ・ 利用時間は MYUpedia で確認してください。

(4) 合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいや持病を有する学生に、大学での学修を進めるうえで必要な配慮を行い、障壁（バリア）となるものを除去することを意味します。障がいや持病の有無にかかわらず、すべての学生が、公平で平等に学修を進めることができるようにするためです。合理的配慮を希望する場合は、スチューデントサービスセンター（事務局 大和：学生支援グループ、太白：教務・学生支援グループ）に相談してください。

⑭ その他

(1) 大学からの連絡

学内行事、集中講義等で連絡事項が発生した場合や、学校生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを定期的に確認してください。また、学内メールのほか、学務管理システム (<https://gakumu.myu.ac.jp/>からログイン) や MYUpedia を通じて連絡を行うことがあります。

<MYUpedia>



<学務管理システム>



【1】 自然災害等による遠隔授業・休講への切り替えの基準

下記の気象状況や自然災害等により学生および教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため遠隔授業への切り替えまたは休講措置を行います。

- ①以下の時点において、仙台市または大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、スチューデントサービスセンター長（以下 SSC 長）および副センター長が遠隔授業への切り替えまたは休講が必要と判断した場合（JR 在来線（東北本線・常盤線・仙山線・仙石線）の仙台駅を含む区間の運休または運転見合わせや仙台市立小中高校の休校を目安として判断します。）

原則、前日 16 時または 17 時の時点：翌日授業を「遠隔授業」または「休講」とする

※気象庁の発表に合わせて時間は前後する場合があります。

※実験・実習、インターンシップ等遠隔授業への切り替えが困難な科目の実施有無については、当該基準に準じ、各担当教員（看護学実習の場合は学群長または実習ワーキンググループ長）の判断によります。

この場合、各学群または各担当教員より、学内メール等で周知されます。

- ②上記のほか、学長および SSC 長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合

なお、前日時点で「対面授業」と判断した場合も、天候の急変等により、遠隔授業または休講へ切替える場合があります。

【2】 休講の基準

あらかじめ予想できない自然災害等が発生した場合や、遠隔授業による授業実施も困難な状況の場合は、休講について判断するものとします。

午前 7時の時点：当日、午前の授業（1・2限）	「休講」
午前 10時の時点：当日、午後の授業（3～5限）	「休講」

上記のほか、学長およびSSC長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合には、学外ウェブサイト、学内メール等によって周知されます。

(2) 学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中等に発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、MYUpediaの「保健室・学生相談等」に記載していますので、参照してください。

(3) 経済的支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金にかかるお知らせ等は、MYUpediaに記載していますので参照してください。

Ⅲ. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められています。

① 履修登録とは（履修規程第3条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。②の事前準備を基に計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行って下さい。履修登録に関する情報は、MYUpediaに掲載します。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用します。

<MYUpedia>

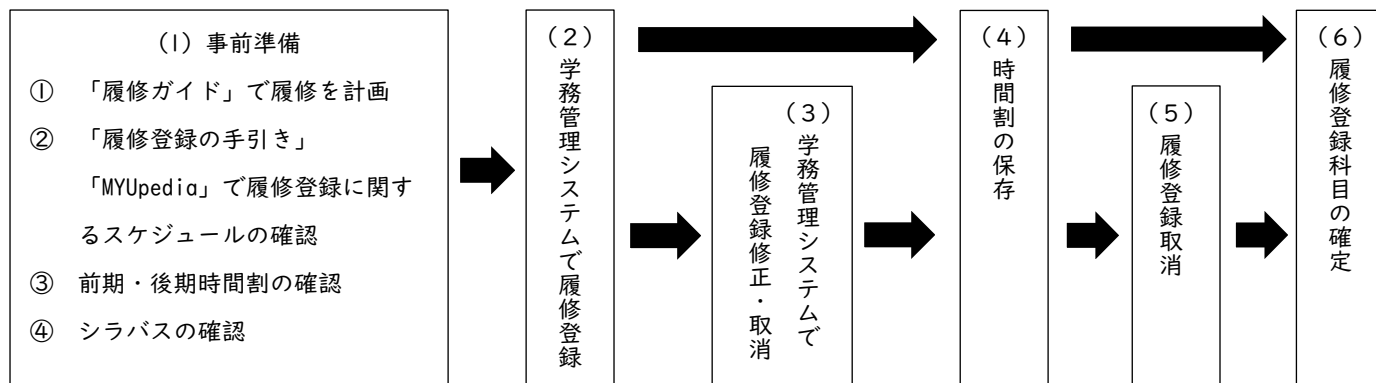


<学務管理システム>



② 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前準備

① 「履修ガイド」で履修計画を検討

「履修ガイド」には、各学群のカリキュラムのほか、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、修得単位を確認の上、履修計画をたててください。

② 「履修登録の手引き」「MYUpedia」で履修登録に関するスケジュールの確認

「履修登録の手引き」には、履修登録に係るスケジュールや、履修登録に際して注意を要する科目等、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。また、履修登録のスケジュールについては、MYUpediaにも随時掲載されます。

③ 前期・後期時間割の確認

MYUpedia に、当該年度の前期・後期時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。指定日・集中開講日を含めて確認してください。

④ シラバスの確認

学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法、ナンバリング（詳細は P20「④ 科目ナンバリング」を参照）等が簡潔に説明されています。特に、選択科目の履修の参考にしてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正・取消

履修登録の内容を修正・取消したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正・取消することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正・取消期間を設けます。

履修登録を行った科目は自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPA に反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(4) 時間割の保存

履修登録が行われたことを確認するため、最終的な登録結果として、時間割を保存してください。

(5) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が(4)で保存した時間割と異なっている場合は、事務局に連絡してください。

③ 履修登録上の注意点 (履修規程第4条、第5条)

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では、履修登録できる単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限
1~4年次	各年時における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで
※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。 <ul style="list-style-type: none">・各学群の卒業要件に含まない科目・春季休業日、夏季休業日および冬季休業日に開講される集中講義等の科目・他大学または短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合	

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義・指定日開講科目を履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、学務管理システム、MYUpedia、学内メールを確認してください。

④ 科目ナンバリング

(1) 科目ナンバリングとは

学びの分野や順序等を表す番号を科目につけ、教育課程の体系性をわかりやすく明示する仕組みです。授業の性格、位置づけ等を明示していますので、科目履修の際の参考としてください。

(2) 付番方法

原則として学類ごとに、科目に固定して付番しています。同一科目でも、所属学類が異なると番号が異なります。本学における科目ナンバリングは次の構成とします。

$\frac{AB}{①} - \frac{CDEF}{②} \frac{I}{③} \frac{OI}{④}$ ①学群・学類コード ②学問分野コード ③配当年次 ④順序番号

※コード表は、MYUpediaで参照できます。

例) 科目名「スタートアップセミナーⅠ」のナンバリングFA-INTR101は以下の内容を表します。

学群・科目コード：基盤教育群 (FA) 学問分野コード：導入科目 [Introductory Subjects] (INTR)

配当年次：1年次 (1)

順序番号：①~③の付番が同じ組合せとなるグループの中で1番目に位置付け (01)

IV. 全学共通科目ほか

① 地域連携実践教育プログラムについて

(1) 地域連携実践教育プログラムとは

地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見て・聞いて・体験し、学修することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー概論及び演習」「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」の4科目6単位です。また、選択科目として、各学群既存科目である「コミュニティ・プランナー関連科目」のうち2領域以上から7科目13単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に「コミュニティ・プランナーアソシエイト」の称号および証書が授与されます。

<コミュニティ・プランナー（CP）プログラム科目構成>

コミュニティ・プランナー基盤科目（5科目7単位）＋コミュニティ・プランナー関連科目（7科目13単位以上）＝計20単位以上

CP 基盤科目（必須）		CP 専門科目（必須）			CP 関連科目（選択）
<p>基盤教育科目</p> <p>1 年次前期 [地域 フィールドワーク]</p> <p>1 単位 全学群必修</p>	<p>CP 開講科目</p> <p>2 年次前期 [CP 概論 及び演習]</p> <p>2 単位 全学群対象 (選択)</p>	<p>2 年次後期 [CP 実践論]</p> <p>2 単位 [CP 概論及び演習] 単位取得者対象</p>	<p>3 年次前期 [CP フィールドワー ク演習Ⅰ]</p> <p>1 単位 [CP 概論及び演習] [CP 実践論] 単位取得者対象</p>	<p>3 年次後期 [CP フィールドワ ーク演習Ⅱ]</p> <p>1 単位 [CP 概論及び演習] [CP 実践論] [CP フィールドワー ク演習Ⅰ] 単位取得者対象</p>	<p>1 年次～4 年次 CP 関連科目（選択） ※別表参照 ・グリーンケア ・グリーンデザイン ・グリーンビジネス 上記のうち 2 領域以上 から 7 科目 13 単位以上 選択必修</p>

※看護学群生が、CP 科目の「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習Ⅰ」「CP フィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。



「コミュニティ・プランナーアソシエイト」称号および証書 授与		
<p><CP 概論及び演習></p> <p>地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方等、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。</p>	<p><CP 実践論></p> <p>実践者、専門家の講義やフィールドワークを通じた事例分析により、CPとしての知識・理解を深めます。</p>	<p><CP フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ></p> <p>コミュニティ再生の実践的経験を通して、CPとしての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。</p>

(3) プログラムの考え方および特色

① GREENの視点

持続可能（サステイナブル）な地域コミュニティを構築し、維持していくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命（いのち）がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命（いのち）のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。

「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命（いのち）の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

② ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク（実践）」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法および履修手続等

① 履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、MYUpediaから参照できる「履修登録の手引き」をよく確認してください。

② 履修登録単位の上限と卒業要件単位への算入

履修登録単位数には上限があります。「③（1）履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

全学群において、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「コミュニティ・プランナー概論及び演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」は卒業要件単位には入りません（地域創生学類を除く）。

③ 看護学群生による履修

看護学群生が、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。「②（1）他学群または他学類の履修について・（2）単位認定に係る申請について」を確認してください。

④ コミュニティ・プランナー関連科目

コミュニティ・プランナー関連科目については、各学群各学類で開講している既設科目の履修となります。他学群・他学類にて開講している科目を履修する場合には、学群・学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※コミュニティ・プランナー関連科目は、各シラバス・時間割通りに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表 コミュニティ・プランナー（CP）関連科目（2領域以上、7科目13単位以上を修得）

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	地域資源論	2後	2	事プ/地域/価値
	人間関係論	1後	2	看護	地域社会学	2後	2	事プ/地域/価値
	臨床心理学	1後	2	看護	コモンズデザイン論	3前	2	事プ/地域/価値
	災害活動論	1後	2	看護	地域医療福祉政策論	3前	2	事プ/地域/価値
	ライフステージ看護学概論Ⅰ (全学群の学生履修可)	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	事プ/地域/価値
					ツーリズムデザイン	3後	2	事プ/地域/価値
	ライフステージ看護学概論Ⅱ (全学群の学生履修可)	2前	2	看護	食農素材化学	2前	2	事プ/地域/価値
					食品衛生学	3前	2	生物生産
	地域看護学概論	2前	2	看護		2前	2	フード
	地域学	2前	2	事プ/地域/価値	動物生殖学	2後	2	生物生産/フード
	行政学	2前	2	事プ/地域/価値	生理学	3前	2	生物生産/フード
	地域調査法	2前	2	事プ/地域/価値	栄養科学	3前	2	生物生産/フード
	社会調査法	2後	2	事プ/地域/価値	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産/フード
	公共経営	2後	2	事プ/地域/価値	食品の安全性管理	3後	2	生物生産/フード
コミュニティビジネス	2後	2	事プ/地域/価値	ライフステージ栄養学	4前	2	フード	
地域分析学	2後	2	事プ/地域/価値	計 28 科目				
グリーンデザイン	地域学	2前	2	事プ/地域/価値	交通計画	3前	2	事プ/地域/価値
	行政学	2前	2	事プ/地域/価値	コモンズデザイン論	3前	2	事プ/地域/価値
	地域調査法	2前	2	事プ/地域/価値	災害の科学(水)	3前	2	事プ/地域/価値
	国土・地域計画	2前	2	事プ/地域/価値	地域環境政策	3前	2	事プ/地域/価値
	災害の科学(土)	2前	2	事プ/地域/価値	地理情報分析	3前	2	事プ/地域/価値
	防災計画	2前	2	事プ/地域/価値	風土・伝統デザイン	3前	2	事プ/地域/価値
	都市と文化	2前	2	事プ/地域/価値	ビジネスプロセス論	3後	2	事プ/地域/価値
	情報と環境	2前	2	事プ/地域/価値	農業農村振興論	3後	2	事プ/地域/価値
	身体と認識	2前	2	事プ/地域/価値	景観工学	3後	2	事プ/地域/価値
	社会調査法	2後	2	事プ/地域/価値	ツーリズムデザイン	3後	2	事プ/地域/価値
	公共経営	2後	2	事プ/地域/価値	地区・街区計画	3後	2	事プ/地域/価値
	コミュニティビジネス	2後	2	事プ/地域/価値	サステナブルデザイン	4前	2	事プ/地域/価値
	地域分析学	2後	2	事プ/地域/価値	地域食産業論	2後	2	生物生産/フード
	都市計画	2後	2	事プ/地域/価値	アグロテクノロジー	2後	2	生物生産/フード
	地域資源論	2後	2	事プ/地域/価値	環境科学	3前	2	生物生産/フード
	地域社会学	2後	2	事プ/地域/価値	食産業政策論	3前	2	生物生産/フード
	ユーザビリティ	2後	2	事プ/地域/価値	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産/フード
	CSR・CSV	3前	2	事プ/地域/価値	食品の安全性管理	3後	2	生物生産/フード
	グローバル共生論	3前	2	事プ/地域/価値	食文化論	4前	2	フード
計 38 科目								
グリーンビジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	地域食産業論	2後	2	生物生産/フード
	地域活性化とビジネス	1後	1	事プ/地域/価値	施設園芸学	2後	2	生物生産
	地域学	2前	2	事プ/地域/価値	アグリビジネス論	2後	2	生物生産
	行政学	2前	2	事プ/地域/価値	食材生産経営学	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事プ/地域/価値	畜産食品学	2後	2	生物生産/フード
	地域企業論	2前	2	事プ/地域/価値	水産食品学	3後	2	生物生産
	社会調査法	2後	2	事プ/地域/価値		2後	2	フード
	公共経営	2後	2	事プ/地域/価値	食料・農業・農村政策	3前	2	生物生産/フード
	コミュニティビジネス	2後	2	事プ/地域/価値	露地園芸学	3前	2	生物生産
	地域分析学	2後	2	事プ/地域/価値	ローカルフードシステム論	3前	2	フード
	地域資源論	2後	2	事プ/地域/価値	食産業政策論	3前	2	生物生産/フード
	地域社会学	2後	2	事プ/地域/価値	付加価値食材生産法	3後	2	生物生産
	コモンズデザイン論	3前	2	事プ/地域/価値	暮らしと作物	3後	2	生物生産/フード
	地域産業政策	3前	2	事プ/地域/価値	動物生産管理学	3後	2	生物生産
	地理情報分析	3前	2	事プ/地域/価値	現代食農ビジネス論	3後	2	生物生産
	社会起業論	3前	2	事プ/地域/価値	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産/フード
	ツーリズムデザイン	3後	2	事プ/地域/価値	食品の安全性管理	3後	2	生物生産/フード
食品マーケティング基礎	2後	2	生物生産/フード	計 34 科目				

看護：看護学類

事プ：事業プランニング学類 地域：地域創生学類 価値：価値創造デザイン学類

生物生産：生物生産学類 フード：フードマネジメント学類

② 他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について（学則第37条、第38条、第40条）

(1) 他学群または他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし、科目区分「卒業研究」については、食産業学群に所属する学生に限り、同学群内の他学類で開講されるもののみ履修申請が可能です。）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群または他学類の授業科目の履修、他の大学または短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の授業科目を履修したいとき（他学群・他学類履修）	あらかじめ当該授業科目担当教員の確認を得ること	前期または後期の授業科目履修登録期限前までに、 <u>承認申請</u> を行うこと	当該単位を修得した年の翌年の前期授業科目の履修登録期限日までに、 <u>在学中修得単位の認定申請</u> を行うこと※1※2	合わせて60単位を超えないもの
②	在学中に、他の大学または短期大学（外国の大学・短期大学を含む）、高等専門学校等の専攻科等における授業科目を履修したいとき（他大学等履修）	他大学等との協議または単位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に、大学または短期大学において修得した単位を認定したいとき（入学前既修得単位）				

※1 ②・③の認定申請は、所定の申請に加えて、以下の書類を添える必要があります。

- ・ 成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの）
- ・ 申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料

※2 4年次生は在学中に申請してください。

※学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、p27に記載しています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

他大学等履修、入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものととして、申請・審査のうえ、振り替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群および学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育科目 6 単位および専門基礎科目 25 単位とし、その上限を 31 単位とします。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分 (略称)	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
外国人留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	基盤教育科目に区分し6単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し3単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し3単位、他学類科目は専門関連科目に区分し8単位、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し3単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位			基盤教育科目に区分し3単位まで算入可能	
外国人留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修				
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について、成績表記は下表のとおりです。なお、①については、本学の開講科目のため、成績評価が明記されますが、②③については、単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分		科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記
①	他学群・他学類履修		他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優・良・可
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	うち振替可能授業科目	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認
		うち振替できない授業科目		-	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数	

③ 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません（放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります）。履修できる授業科目、授業計画（シラバス）や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

<学都仙台ネットワーク>



(2) 単位互換制度の申請方法

① 受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認	履修申請（出願）	履修許可・受講開始	成績連絡	卒業要件単位算入
前期	前年度3月	3月～4月	4月	10月	翌年度4月
後期	前年度3月	8月（大学により4月）	10月	3月	翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始	ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の一週間前までに単位互換願書を宮城大学事務局あてに提出	宮城大学の履修許可後、授業の受講開始	宮城大学事務局より成績連絡	宮城大学事務局に既修得単位認定を申請

② 出願資格

宮城大学に在籍する学生（大学院生、研究生、科目等履修生および特別聴講生を除く。）で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、受講者の所属学年等、受講制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③ 出願期間

出願期間は、相手先の大学によって異なります。希望する大学の出願締切の1週間前までに、宮城大学事務局へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④ 出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生（特別聴講学生）願書」（共通様式または各校指定様式）に必要事項を記入して、宮城大学事務局へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤ 授業の履修

出願があってから、相手先の大学等で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知書」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務局よりお知らせします。

⑥ 成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、学内メールまたは学務管理システムでお知らせしますので、宮城大学事務局窓口で受け取ってください。

⑦ 単位の認定および卒業要件への算入

⑥で成績が通知された場合、規程の範囲内で単位の認定および卒業要件単位に算入することができます。詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、MYUpediaで確認してください。

<MYUpedia>



④ 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター、基盤教育群等から案内される募集手続きに従って応募・履修登録します。詳細は各担当部局で配布する募集要項等を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認のうえで応募してください。

V. 基盤教育科目について

基盤教育科目は、宮城大学に在籍する全学生が履修する科目群です。

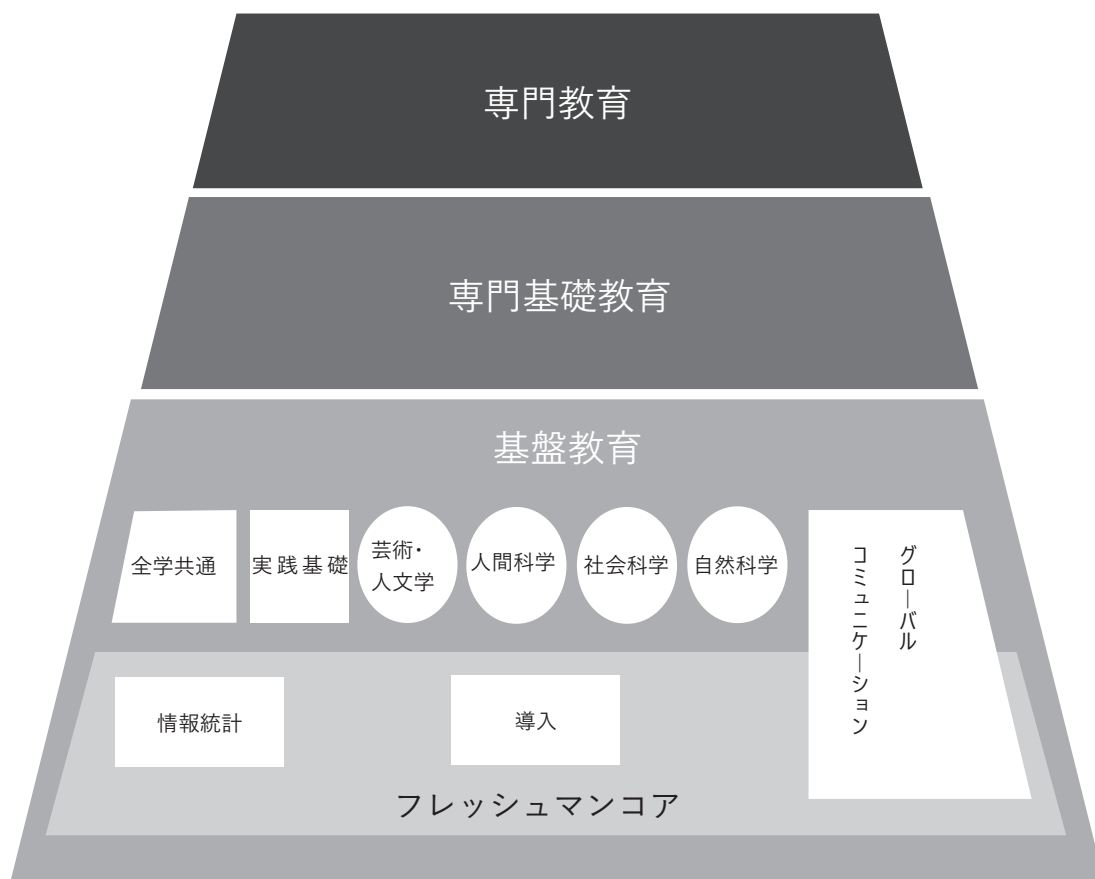
皆さんはこれまでの学びで、文法や法則、情報活用のスキル、歴史・文化・社会など、さまざまな知識を教わり、その知識に基づきながら、提示された問いに答えを見いだす経験を積み重ねてきたことと思います。皆さんが培ってきた、大きな財産です。

これから始まる大学での学びでは、その財産を基礎に、自ら考え、課題を見だし、その答えを探究することが求められます。与えられた問いに、与えられた知識から答えを導くだけでなく、自ら発した問いに対し、自ら調べ、考えを深め、時に他者と意見を交わし、自らとは異なる見解や文化の知見も踏まえながら、答えを導き出していくのです。

学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置づけることによって、将来の展望を持つことができるようになる。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

そのためには皆さんの充実した学びが重要であり、その最初の働きかけとして、宮城大学の全学生に基盤教育科目を通して3つの力（知）を養ってもらいます。1つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力（技法知）。2つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力（学問知）。そして3つ目は、自己と他者への理解を深め、他者と協働しながら目標を達成する力（実践知）です。これら3つの力（知）の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。

なお、卒業に必要な基盤教育科目の単位数は、学群によって異なります。履修に当たっては、所属学群で必要な基盤教育科目の単位数を確認し、図に示した9つの科目分野からのバランス良い履修を心がけてください。



① フレッシュマンコアとは

基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のための全学必修科目群をフレッシュマンコアと呼びます。フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。ここではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で適切な仮説や答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

<フレッシュマンコア>

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



基礎力としての言語スキル、
数量スキル、情報スキルを
身につけます。



思考力の基本的な
トレーニングを
行います。



実践力の基礎となる
「自己理解」「他者理解」を
学びます。

人間力＋学び続ける力



明日の姿を見通す力

フレッシュマンコアとして全学必修科目に指定されている科目は、以下の通りです。

①スタートアップセミナーⅠ ……▶宮城大学での学びの基礎を確立するための科目です。前半は、大学での学びに必要な知見やスキルを講義形式で学びます。後半は、課題解決に向けた主体性・協同性の涵養にも配慮し、少人数でのグループワークが中心となります。

②スタートアップセミナーⅡ ……▶前半は、在学中に必要とされるだけでなく、卒業後にも利用可能な、汎用性の高い知見・態度の涵養とスキルの修得を目指します。後半は、キャリア・デザインの授業を通じて、自分自身の現在・過去・未来を考えていきます。

③地域フィールドワーク ……▶地域を歩き、自らのミッションを問う科目です。地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。

④コンピューターリテラシー ……▶リテラシーとは元々は読み書きの能力を指します。この科目では、コンピューターとネットワークをまさしく文房具として活用するための技法を習得します。道具を上手に使えることは生産性に直結します。

⑤情報化社会と技術 ……▶学問としての計算機科学への導入科目です。すなわち、情報の理論、コンピューターの仕組み、プログラムと通信の原理を学びます。現代社会を支える情報システムの根幹を成す理論の枠組みを知ることが、それらをうまく利用するためにも極めて重要です。

⑥基礎統計学Ⅰ ……▶AIやビッグデータ時代といわれる現代社会において、統計学に裏打ちされた数量科学的検証の重要性が高まっています。その応用は、あらゆる分野と幅広く、様々な性質のデータに対して統計解析を適切に実行し、妥当な解釈を得るには、正しい知識と解析技術が不可欠です。本講義では、グラフや表による標本データの整理・表現法を身に付け、記述統計を基礎とした理論や解析技術を学びます。

⑦必修英語科目（以下の6つの英語科目は全学必修です）

English GatewayⅠ、 English Self-ExpressionⅠ

English GatewayⅡ、 English Self-ExpressionⅡ

English for Academic Purposes、 English Expedition

……………▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し、読解の能力を強化させる一方、スピーキングやライティングを通し、異なる表現方法を学びます。また、英語の教材を通して、様々な視点や異文化理解を身に付けることを目指します。

② 基盤教育科目の9つの科目分野

基盤教育科目は、以下の9つの科目分野に、62科目を配しています。そのなかでも「*」の付いている科目は全学必修科目となります。この他にも、学群ごとの必修科目が存在します。

(1) 導入科目：宮城大学の基盤教育を特徴付ける科目分野

スタートアップセミナーⅠ*	スタートアップセミナーⅡ*	地域フィールドワーク*
---------------	---------------	-------------

(2) 情報統計：A I時代・情報化社会の基本スキルを修得するための科目分野

コンピューターリテラシー*	情報化社会と技術*	基礎統計学Ⅰ*	基礎統計学Ⅱ(a)
---------------	-----------	---------	-----------

(a)「基礎統計学Ⅱ」は、事業構想学群および食産業学群の必修科目です。

(3) 芸術・人文学：豊かな精神性の涵養に資する科目分野

現代メディアカルチャー論	美術	音楽	美術演習
音楽演習	文学	世界の歴史と文化	日本の歴史と文化
東北の歴史と文化	人と宗教		

(4) 人間科学：心身の健康と健やかな生活環境の構築に資する科目分野

心理学	健康科学	スポーツ実技	体を動かす楽しみ
スポーツ科学	福祉入門	食と社会(b)	

(b)「食と社会」は、食産業学群の必修科目です。

(5) 社会科学：社会の理解に資する科目分野

憲法	政治学概論	国際関係論	社会と経済
現代東北社会論	社会の諸相	社会と哲学	人口学概論
文化人類学概論			

(6) グローバルコミュニケーション：国際感覚の育成に資する科目分野

English GatewayⅠ*	English Self-ExpressionⅠ*	English GatewayⅡ*	English Self-ExpressionⅡ*
English for Academic Purposes*	English Expedition*	University English	Academic Writing
Academic Reading	中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	韓国語Ⅰ
韓国語Ⅱ	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	国際日本学/Japanology

(7) 自然科学：自然の理解に資する科目分野

数学概論	数理科学	物理概論	化学概論(c)
生物概論(d)	生命科学	環境学概論	地球と宇宙

(c)「化学概論」は、食産業学群の必修科目です。

(d)「生物概論」は、看護学群および食産業学群の必修科目です。

(8) 実践基礎：実践的な専門教育に向けての導きの系となる科目分野

全学自由ゼミ(e)	コミュニティ・プランナー概論及び演習	アントレプレナー基礎
-----------	--------------------	------------

(e)「全学自由ゼミ」は、看護学群では開講しません。当該科目の履修を希望する看護学群の学生は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

(9) 全学共通科目：国内外の大学や企業と連携した研修など、全学に共通する学びを提供する科目分野

グローバルインターンシップ	学外研修
---------------	------

③ 留学生対象科目

留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。

また、記載されている英語科目(*)の中から4年間で2単位(2科目)以上を履修し修得する必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
スタートアップセミナーⅠ	○	○	○
スタートアップセミナーⅡ	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
コンピューターリテラシー	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
基礎統計学Ⅰ	○	○	○
基礎統計学Ⅱ	選択	○	○
* English GatewayⅠ	6科目から 2単位 (2科目) 以上選択	6科目から 2単位 (2科目) 以上選択	6科目から 2単位 (2科目) 以上選択
* English Self-ExpressionⅠ			
* English GatewayⅡ			
* English Self-ExpressionⅡ			
* English for Academic Purposes			
* English Expedition			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	○	選択	○
食と社会	選択	選択	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

④ 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、「Ⅵ. 学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

VI. 看護学群

① 看護学群看護学類の4年間の学びの流れ

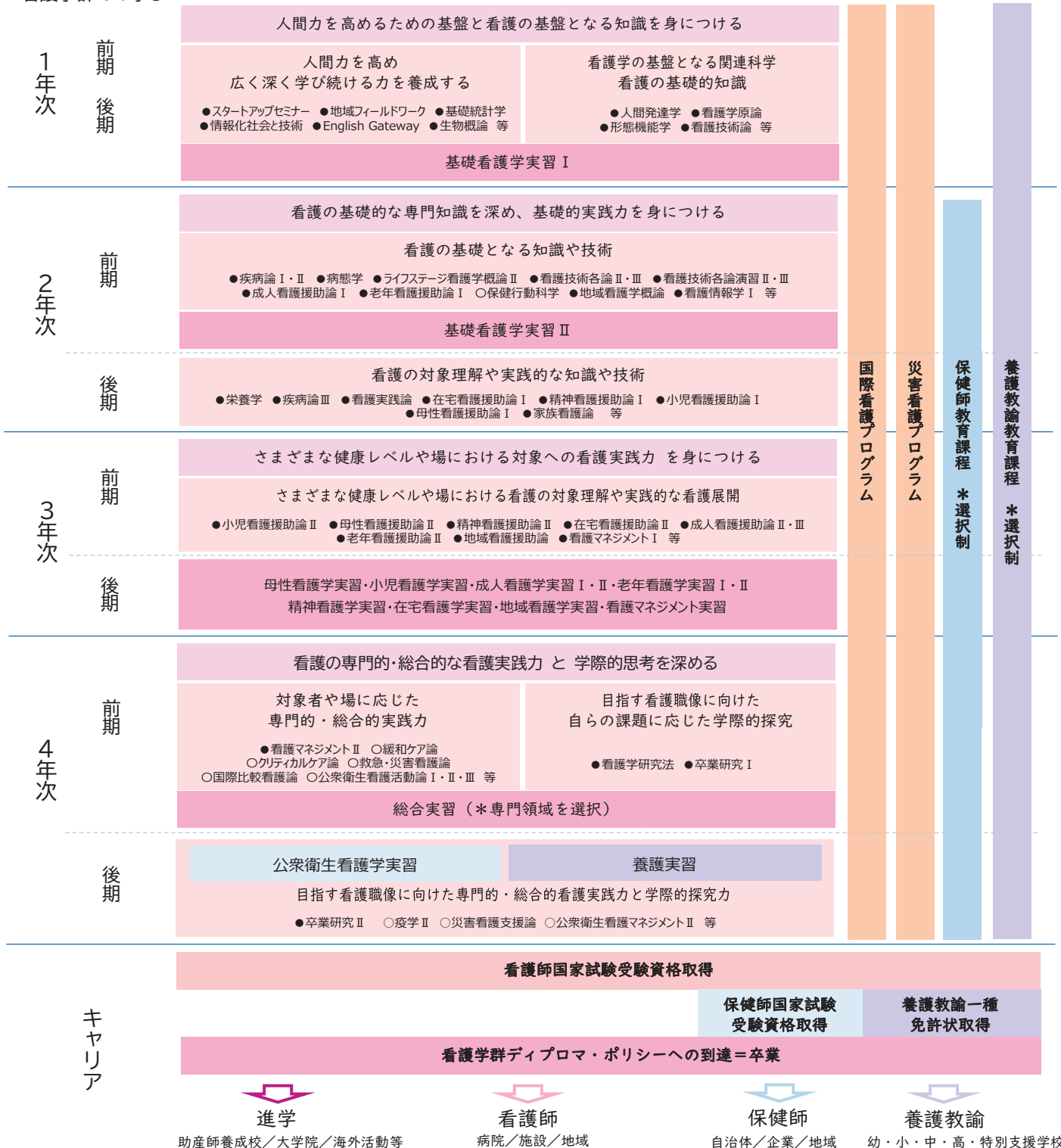
(1) 看護学群での学びとキャリア

看護学群の理念は、歴史・文化の中で継承されてきた看護という全人格的、社会的行為を学問的に探究し、研究・教育を通して社会に還元することです。看護学を「人間の生命活動全般にわたる、サイエンスとアートを統合した実践科学」として捉え、時代や社会のニーズを見通し、新たな看護学を創造する力を養うことが重要と考えています。

看護学群では、ヒューマンケアを中核とした創造的看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に広く活躍できる看護職を目指して学修します。そのためには、生命の尊厳を基盤とする“豊かな人間力”と“高い倫理観”を備えて、科学的思考力とマネジメント能力を身につける必要があります。人間力を高めるために「フレッシュマンコア」科目を中心とする基盤教育科目に加えて、1年次から看護学の学問体系に即して、講義、演習、実習科目を関連づけ、積み上げながら、看護実践力を獲得できるように主体的に学修します。

卒業後の道には、看護師のみならず、保健師（養護教諭二種）または養護教諭一種、助産師養成校や大学院等への進学があります。将来目指す看護職像に向けて、入学時から必要な授業科目を選択し、学修します。

看護学群での学び

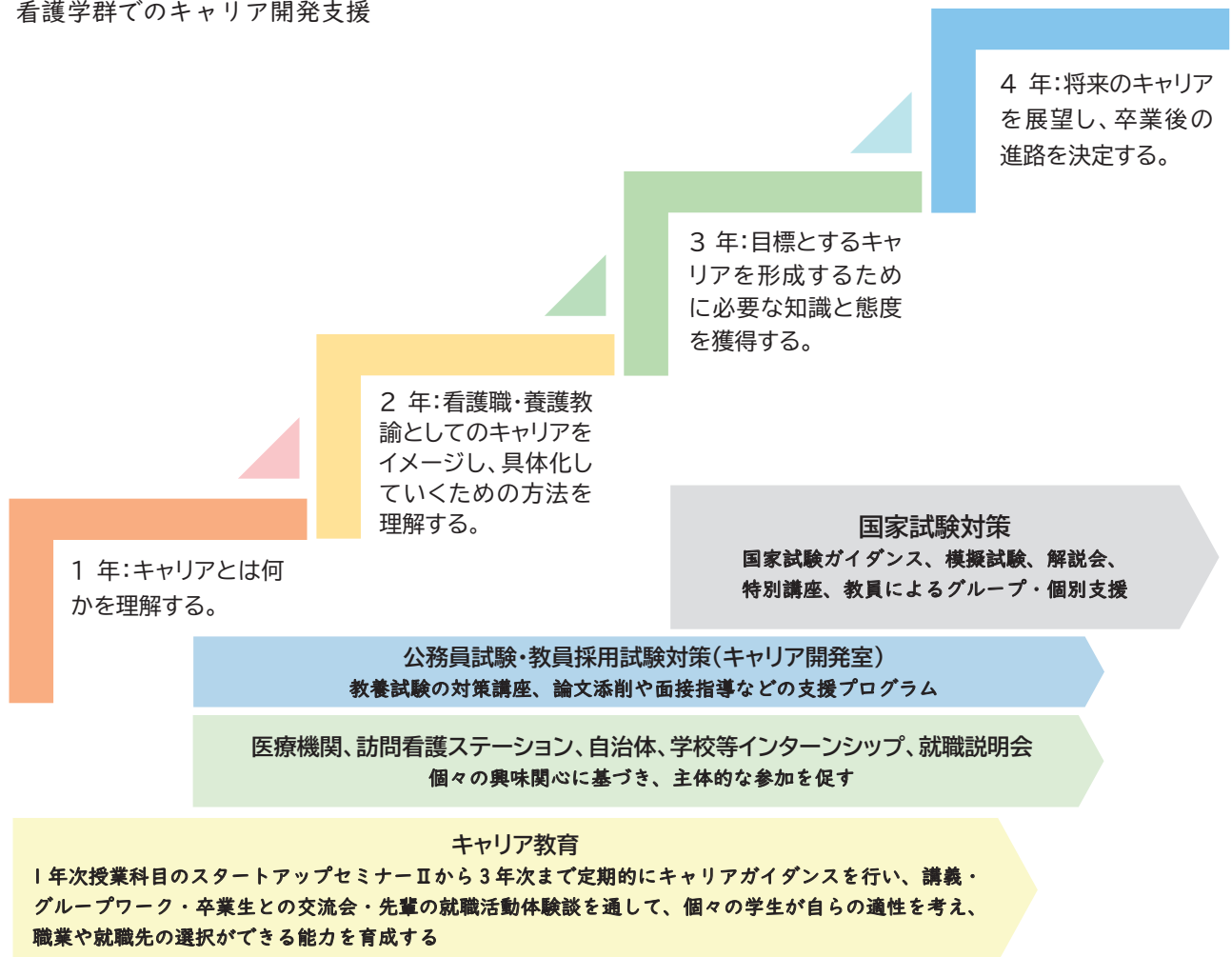


(2) 看護学群でのキャリア開発支援

看護職はあらゆる場において、人々の健康と生活を支援する専門職であり、自己成長力（成長し続ける力）を獲得することが重要です。そのため、入学時から自身のキャリアを見つめ、目標の実現に向かって主体的に取り組めます。例えば、資格取得に向けた科目を自ら選択し、国家試験を受験し合格する、あるいは免許状を取得するなどがあります。

キャリアの主体は学生個人であり、主体的に取り組むことは、社会人として求められる基本的な力です。看護学群では、自己を見つめ、自身の将来を自ら選択し創造できることを目指して、個々の学生が自分の適性を考え、卒業後の進路を決定できるよう各学年次の目標を設定し、段階的にキャリア開発支援を行っています。

看護学群でのキャリア開発支援



(3) 看護学類の教育目標

	ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)
看護学類	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士（看護学）の学位を授与する。	看護学群看護学類では、看護学の基盤となる知識・技術を身につける専門基礎科目と看護学の専門性を深め、広げる専門科目を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を広げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。
(1) 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	看護学の関連科目や、看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。 専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム、看護に有用な ICT の活用等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。
(2) 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づき適切な臨床判断ができる。	講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を、科学的思考過程を経て明確化し、適切な臨床判断に基づいた課題解決につなげる教育を行う。 専門基礎科目として、医療における情報の収集や分析、伝達等に関する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。 専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。
(3) 表現力	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を実践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。 専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を実践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。
(4) 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。
(5) 協働性	社会のニーズに対応したヘルスケアシステムを作るチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的な態度を養う教育を行う。 専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。

(4) 看護学類のカリキュラム・マップ

本カリキュラム・マップは、看護学群の学ディプロマ・ポリシーに向かって、どの授業でどのような力が身につくのかを示したものです。学年が進むにつれて、知識・技術の習得を土台に、思考力・判断力を高め、さらに主体性や協働性の獲得へと学びを発展させていく流れを確認することができます。履修や学修の振り返りの際に、自分の成長を確かめるために活用してください。

看護学類のディプロマ・ポリシー				
(1)知識・技術	(2)思考力・判断力	(3)表現力	(4)主体性	(5)協働性
対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づき適切な臨床判断ができる。	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	社会のニーズに対応したヘルスケアシステムを作るチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。

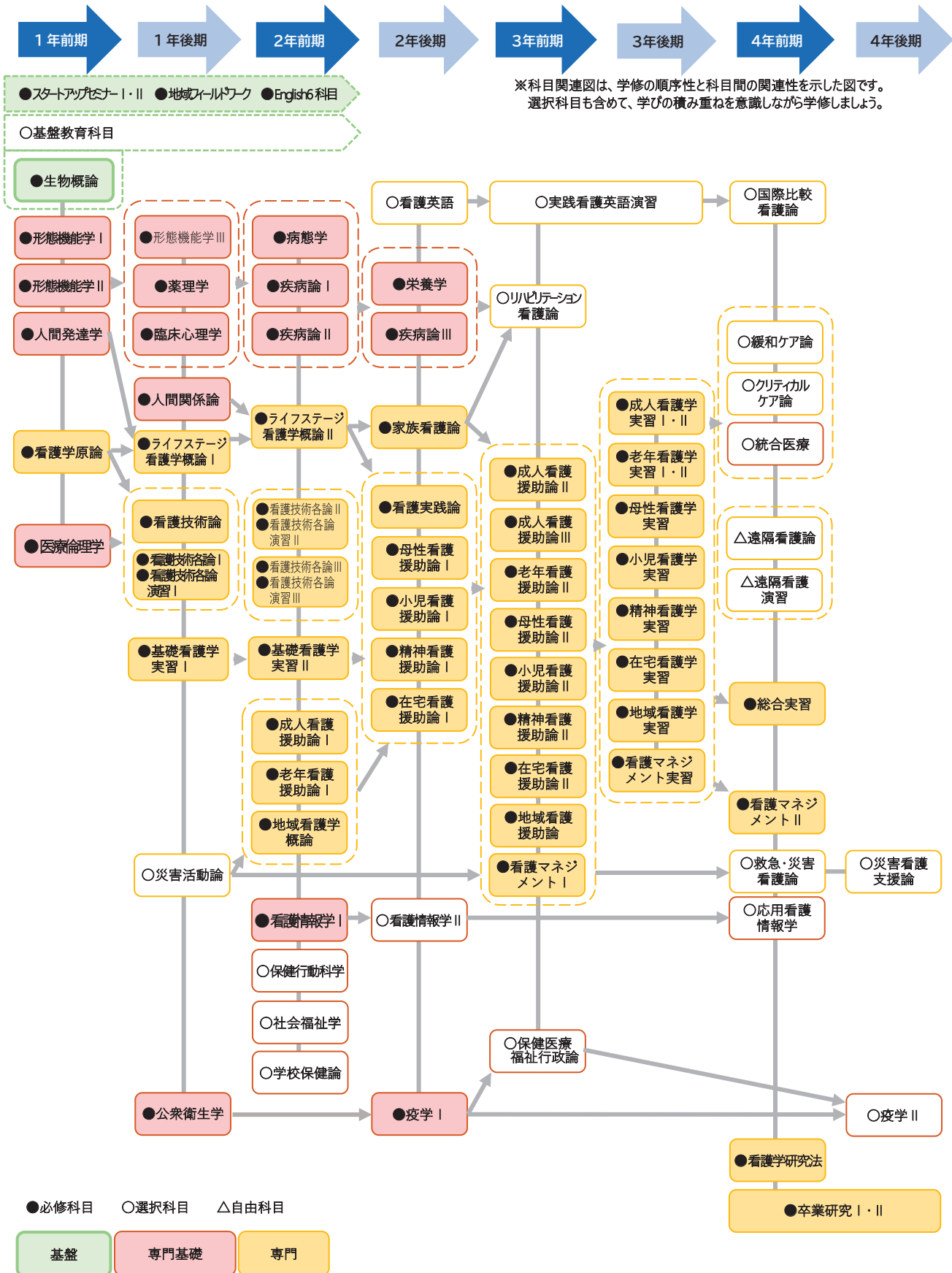
配当年次	必修・選択	科目区分	授業形態	授業科目	各科目におけるディプロマ・ポリシーの位置づけを合計10点として数値で表している。授業科目が複数表示されている欄については、位置づけ（数値）の平均値を示している。なお、科目ごとの位置づけ（数値）はシラバスに示している。
1年次	必修	基盤教育科目	講義	スタートアップセミナーⅠ, スタートアップセミナーⅡ, 地域フィールドワーク, コンピューターリテラシー, 情報化社会と技術, 基礎統計学Ⅰ, 生物概論	
			演習	English GatewayⅠ, English Self-ExpressionⅠ, English GatewayⅡ, English Self-ExpressionⅡ	
		専門基礎科目	講義	形態機能学Ⅰ, 形態機能学Ⅱ, 形態機能学Ⅲ, 薬理学	
			講義	人間発達学, 臨床心理学, 人間関係論	
			講義	医療倫理学	
			講義	公衆衛生学	
	専門科目	講義	看護学原論, ライフステージ看護学概論Ⅰ		
		講義	看護技術論, 看護技術各論Ⅰ, 看護技術各論演習Ⅰ		
		演習	看護技術論, 看護技術各論Ⅰ, 看護技術各論演習Ⅰ		
		実習	基礎看護学実習Ⅰ		
選択	専門科目	講義	災害活動論		
2年次	必修	基盤教育科目	演習	English for Academic purposes, English Expedition	
			講義	病態学, 疾病論Ⅰ, 疾病論Ⅱ, 疾病論Ⅲ, 栄養学	
		専門基礎科目	演習	看護情報学Ⅰ	
			講義	疫学Ⅰ	
		専門科目	講義	ライフステージ看護学概論Ⅱ, 家族看護論	
			講義	看護技術各論Ⅱ, 看護技術各論Ⅲ, 看護技術各論演習Ⅱ, 看護技術各論演習Ⅲ, 看護実践論	
			講義	成人看護援助論Ⅰ, 老年看護援助論Ⅰ, 地域看護学概論, 母性看護援助論Ⅰ, 小児看護援助論Ⅰ, 精神看護援助論Ⅰ, 在宅看護援助論Ⅰ	
			実習	基礎看護学実習Ⅱ	
	選択	専門基礎科目	講義	看護情報学Ⅱ	
			講義	保健行動科学	
			講義	社会福祉学	
			講義	学校保健論	
		専門科目	講義	看護英語	
		公衆衛生看護課程	講義	公衆衛生看護学原論	
養護教諭教育課程	講義	教育学概論, 教育心理学, 教育課程論, 教育相談の基礎と方法, 養護概説			
3年次	必修	専門科目	講義	地域看護援助論, 母性看護援助論Ⅱ, 小児看護援助論Ⅱ, 精神看護援助論Ⅱ, 在宅看護援助論Ⅱ, 老年看護援助論Ⅱ, 成人看護援助論Ⅱ, 成人看護援助論Ⅲ, 看護マネジメントⅠ	
			実習	地域看護学実習, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 精神看護学実習, 在宅看護学実習, 老年看護学実習Ⅰ, 老年看護学実習Ⅱ, 成人看護学実習Ⅰ, 成人看護学実習Ⅱ, 看護マネジメント実習	
	選択	専門基礎科目	講義	保健医療福祉行政論	
		専門科目	演習	実践看護英語演習	
	専門科目	講義	リハビリテーション看護論		
	公衆衛生看護課程	講義	公衆衛生看護援助論Ⅰ, 公衆衛生看護援助論Ⅱ		
	養護教諭教育課程	講義	教職論, 健康相談活動, 道徳・特別活動及び総合的な学習と生徒指導		
4年次	必修	専門科目	講義	看護マネジメントⅡ	
			演習	看護学研究法, 卒業研究Ⅰ, 卒業研究Ⅱ	
			実習	総合実習	
	選択	専門基礎科目	講義	応用看護情報学	
			講義	統合医療	
			講義	疫学Ⅱ	
			講義	救急・災害看護論	
		専門科目	講義	国際比較看護論	
			演習	緩和ケア論 クリティカルケア論 災害看護支援論 遠隔看護論, 遠隔看護演習	
	公衆衛生看護課程	講義	公衆衛生看護活動論Ⅰ, 公衆衛生看護活動論Ⅱ, 公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護マネジメントⅠ, 公衆衛生看護マネジメントⅡ, 公衆衛生看護マネジメント演習		
		実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ, 公衆衛生看護学実習Ⅱ, 公衆衛生看護学実習Ⅲ		
	養護教諭教育課程	講義	教育の方法, 特別支援教育, 教職実践演習(養護教諭)		
		実習	養護実習		

(5) 看護学類の科目関連図 (カリキュラム・ツリー)

科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。矢印は学修の順序性を示し、縦の線や囲みは科目間の関連を示します。看護学類の専門基礎科目と専門科目は、すべて関連しています。各自が選択する教育課程に応じて、学修目的に合わせて選択科目を履修します。

それぞれの開講時期に学修する科目を関連づけて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。

①看護学類科目関連図 (看護師教育課程) 2022年度以降



看護師教育課程

2 看護学類の科目配当

(1) 看護師教育課程科目配当表

科目区分	1年次					2年次						
	前期		後期			前期		後期				
	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科導入	必修	●※ スタートアップセミナーⅠ ●※ 地域フィールドワーク	2 1	●※ スタートアップセミナーⅡ	2						
	統計情報		●※ コンピューターリテラシー	2	●※ 情報化社会と技術 ●※ 基礎統計学Ⅰ	2 2		基礎統計学Ⅱ	2			
	コミュニケーション		●国※ English GatewayⅠ ●国※ English Self-ExpressionⅠ	1 1	●国※ English GatewayⅡ ●国※ English Self-ExpressionⅡ	1 1	●国※ English for Academic Purposes ●国※ English Expedition	1 1			留学生は2単位以上選択必修	
			国 中国語Ⅰ 国 韓国語Ⅰ 国 スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国際日本学/Japanology	1 1 1 2			国 University English 国 Academic Writing 国 Academic Reading	1 1 1		
		社会科学	選択・一部必修	国 国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2					
	自然科学		生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ● 生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2						
	芸術・人文学		現代メディアアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2						
	人間科学		心理学 健康科学 スポーツ科学 スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1						
	基礎実践		アントレプレナー基礎(集中)	2				コミュニティ・プランナー概論及び演習	2			
	留学生		日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1		1
全学共通科目		グローバルインターシップ(集中) 学外研修(集中)	2 2									
専門教育科目	専門基礎科目	必修	● 人間発達学 ● 医療倫理学 ● 形態機能学Ⅰ ● 形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	● 臨床心理学 ● 人間関係論 ● 形態機能学Ⅲ ● 薬理学 ● 公衆衛生学	2 2 1 2 2	● 病態学 ● 疾病論Ⅰ ● 疾病論Ⅱ ● 看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	● 栄養学 ● 疫学Ⅰ ● 疾病論Ⅲ	2 2 1		
		選択	各自の学修目的・目標に合わせて履修				保健行動科学 社会福祉学 学校保健論	2 2 2	看護情報学Ⅱ		1	
	専門科目	必修	● 看護学原論	2	● ライフステージ看護学概論Ⅰ ● 看護技術論 ● 看護技術各論Ⅰ ● 看護技術各論演習Ⅰ ● 基礎看護学実習Ⅰ	2 2 1 1 1	● ライフステージ看護学概論Ⅱ ● 看護技術各論Ⅱ ● 看護技術各論Ⅲ ● 看護技術各論演習Ⅱ ● 看護技術各論演習Ⅲ ● 基礎看護学実習Ⅱ ● 地域看護学概論 ● 老年看護援助論Ⅰ ● 成人看護援助論Ⅰ	2 1 1 1 1 2 2 2	● 看護実践論 ● 家族看護論 ● 母性看護援助論Ⅰ ● 小児看護援助論Ⅰ ● 精神看護援助論Ⅰ ● 在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2		
		選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修		災 災害活動論	2			国 看護英語 国 実践看護英語演習 (集中※2年後期または3年後期) 公衆衛生看護学原論	1 1 2		
		自由										
看護教諭教育課程(卒業要件外)						教育学概論 教育心理学	2 2	教育課程論 教育相談の基礎と方法 看護概説	2 2 2			
履修条件	必修単位数	基盤教育科目：17単位 専門教育科目：24単位					基盤教育科目：2単位 専門教育科目：35単位					
	選択必修単位数	基盤教育科目：6単位										
	履修単位数の上限	49単位					49単位					

2 看護学類の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

科目区分	1年次					2年次						
	前期		後期			前期		後期				
	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科導入	必修	●※ スタートアップセミナーⅠ ●※ 地域フィールドワーク	2 1	●※ スタートアップセミナーⅡ	2						
	統計情報		●※ コンピューターリテラシー	2	●※ 情報化社会と技術 ●※ 基礎統計学Ⅰ	2 2		基礎統計学Ⅱ	2			
	コミュニケーション		●国※ English GatewayⅠ ●国※ English Self-ExpressionⅠ	1 1	●国※ English GatewayⅡ ●国※ English Self-ExpressionⅡ	1 1	●国※ English for Academic Purposes ●国※ English Expedition	1 1			留学生は2単位以上選択必修	
			国 中国語Ⅰ 国 韓国語Ⅰ 国 スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国際日本学/Japanology	1 1 1 2			国 University English 国 Academic Writing 国 Academic Reading	1 1 1		
		社会科学	選択・一部必修	国 国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2					
	自然科学		生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ● 生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2						
	芸術・人文学		現代メディアアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2						
	人間科学		心理学 健康科学 スポーツ科学 スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1						
	基礎実践		アントレプレナー基礎(集中)	2				コミュニティ・プランナー概論及び演習	2			
	留学生		日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1
全学共通科目		グローバルインターシップ(集中) 学外研修(集中)	2 2									
専門教育科目	専門基礎科目	必修	● 人間発達学 ● 医療倫理学 ● 形態機能学Ⅰ ● 形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	● 臨床心理学 ● 人間関係論 ● 形態機能学Ⅲ ● 薬理学 ● 保 公衆衛生学	2 2 1 2 2	● 病態学 ● 疾病論Ⅰ ● 疾病論Ⅱ ● 看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	● 栄養学 ● 保 疫学Ⅰ ● 疾病論Ⅲ	2 2 1		
		選択	各自の学修目的・目標に合わせて履修				保健行動科学 社会福祉学 学校保健論	2 2 2	看護情報学Ⅱ		1	
	専門科目	必修	● 看護学原論	2	● ライフステージ看護学概論Ⅰ ● 看護技術論 ● 看護技術各論Ⅰ ● 看護技術各論演習Ⅰ ● 基礎看護学実習Ⅰ	2 2 1 1 1	● ライフステージ看護学概論Ⅱ ● 看護技術各論Ⅱ ● 看護技術各論Ⅲ ● 看護技術各論演習Ⅱ ● 看護技術各論演習Ⅲ ● 基礎看護学実習Ⅱ ● 地域看護学概論 ● 老年看護援助論Ⅰ ● 成人看護援助論Ⅰ	2 1 1 1 1 2 2 2	● 看護実践論 ● 家族看護論 ● 母性看護援助論Ⅰ ● 小児看護援助論Ⅰ ● 精神看護援助論Ⅰ ● 在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2		
		選択必修							● 保 公衆衛生看護学原論		2	
		選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修		災 災害活動論	2			国 看護英語 国 実践看護英語演習 (集中※2年後期または3年後期)		1 1	
		自由										
看護教諭教育課程(卒業要件外)						教育学概論 教育心理学	2 2	教育課程論 教育相談の基礎と方法 養護概説	2 2 2			
履修条件	必修単位数	基盤教育科目：17単位 専門教育科目：24単位					基盤教育科目：2単位 専門教育科目：35単位					
	選択必修単位数	基盤教育科目：6単位										
	履修単位数の上限	49単位					49単位					

【凡例】●：必修科目、災：災害看護プログラム科目、国：国際看護プログラム科目、※：フレッシュマンコア科目

3年次					4年次					卒業要件	
前期		後期			前期		後期				
履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位			
										5単位修得	必修を含めて 25単位以上修得
										6単位以上修得	
										6単位修得	
										必修科目を含めて 8単位以上修得	
										留学生のみ履修可能	
										全学共通科目は卒業要件単位に含まない	
											必修科目を含めて 25単位以上修得
●保	保健医療福祉行政論	2				●保	疫学Ⅱ	2			
							応用看護情報学	1			必修科目を含めて 78単位以上修得
							統合医療	2			
●	地域看護援助論	2	●	地域看護学実習	1	●	看護学研究法	2	●	卒業研究Ⅱ	1
●	母性看護援助論Ⅱ	2	●	母性看護学実習	2	●	総合実習	2			
●	小児看護援助論Ⅱ	2	●	小児看護学実習	2	●	卒業研究Ⅰ	1			
●	精神看護援助論Ⅱ	2	●	精神看護学実習	2	●	看護マネジメントⅡ	2			
●	在宅看護援助論Ⅱ	2	●	在宅看護学実習	2						
●	老年看護援助論Ⅱ	2	●	老年看護学実習Ⅰ	1						
●	成人看護援助論Ⅱ	2	●	老年看護学実習Ⅱ	2						
●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	成人看護学実習Ⅰ	2						
●災	看護マネジメントⅠ	2	●	成人看護学実習Ⅱ	2						
			●	看護マネジメント実習	2						
●保	公衆衛生看護援助論Ⅰ	2				●保	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	●保	公衆衛生看護マネジメントⅡ	2
●保	公衆衛生看護援助論Ⅱ	2				●保	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	●保	公衆衛生看護マネジメント演習	1
						●保	公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	●保	公衆衛生看護学実習Ⅱ	3
						●保	公衆衛生看護マネジメントⅠ	2	●保	公衆衛生看護学実習Ⅲ	1
						●保	公衆衛生看護学実習Ⅰ	1			
	リハビリテーション看護論	2	国	実践看護英語演習 (集中※2年後期または3年後期)	1	災	救急・災害看護論	2	災	災害看護支援論	2
						国	国際比較看護論	2			
							緩和ケア論	1			
							クリティカルケア論	1			
							遠隔看護論	2			自由科目は卒業要件単位に含まない
							遠隔看護演習	1			
	教職論	2					教育の方法	2	※看護実習と教職実践演習(看護教諭)は看護教諭教育課程選択者のみ履修可)		
	健康相談活動	2					特別支援教育	1			
	道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2									
専門教育科目：36単位					専門教育科目：8単位					122単位	
基盤教育科目：6単位										6単位以上	
専門基礎科目：2単位 専門科目：4単位					専門基礎科目：2単位 専門科目：16単位					26単位	
49単位					49単位					必要単位数：154単位以上	

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

留学生は日本語Ⅳ以外必修

必修を含めて
128単位以上修得

自由科目は卒業要件単位に含まない

2 看護学類の科目配当

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

科目区分	1年次					2年次							
	前期		後期			前期		後期					
	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	
基盤教育科目	科 導 目 入	必修	●※ スタートアップセミナーⅠ	2	●※ スタートアップセミナーⅡ	2							
			●※ 地域フィールドワーク	1									
	統 情 計 報	必修	●※ コンピューターリテラシー	2	●※ 情報化社会と技術	2							
					●※ 基礎統計学Ⅰ	2		基礎統計学Ⅱ	2				
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	必修	●※ English GatewayⅠ	1	●※ English GatewayⅡ	1	●※ English for Academic Purposes	1	留学生在は2単位以上選択必修				
		必修	●※ English Self-ExpressionⅠ	1	●※ English Self-ExpressionⅡ	1	●※ English Expedition	1					
		国	中国語Ⅰ	1	中国語Ⅱ	1	国	University English					
	社 会 科 学	国	韓国語Ⅰ	1	韓国語Ⅱ	1	国	Academic Writing	1				
		国	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1	国	Academic Reading	1				
		国	国際関係論	2	●※ 憲法	2							
	自 然 科 学		社会と哲学	2	政治学概論	2							
			人口学概論	1	社会と経済	2							
			文化人類学概論	2	現代東北社会論	2							
	芸 術 ・ 人 文 学		生命科学	2	数理学	2							
			数学概論	2	環境学概論	2							
		物理概論	2	地球と宇宙	2								
人 間 科 学		化学概論	2										
		● 生物概論	2	● 美術	2								
		現代メディアカルチャー論	2	音楽	1								
基 礎 実 践		音楽	2	音楽演習	1								
		美術演習	1	文学	2								
		日本の歴史と文化	2										
留 学 生		世界の歴史と文化	2										
		東北の歴史と文化	2										
		人と宗教	2										
全 学 共 通 科 目		心理学	2	● 養 体を動かす楽しみ	1								
		健康科学	2	福祉入門	1								
		スポーツ科学	1										
専 門 基 礎 科 目	必修	● 養 スポーツ実技	1										
	必修	食と社会	1										
	基礎実践	アントレプレナー基礎(集中)	2				コミュニティ・プランナー概論及び演習	2					
専 門 教 育 科 目	必修	日本語Ⅰ	1	日本語Ⅱ	1	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1				
	必修	日本語Ⅱ	2	日本語Ⅲ	2								
	必修	日本語Ⅲ	2	日本語Ⅳ	2								
専 門 基 礎 科 目	必修	グローバルインターシップ(集中)	2										
	必修	学外研修(集中)	2										
	必修	● 人間発達学	2	● 養 臨床心理学	2	● 養 病態学	2	● 養 栄養学	2				
専 門 教 育 科 目	必修	● 医療倫理学	2	● 人間関係論	2	● 養 疾病論Ⅰ	1	● 養 疫学Ⅰ	2				
	必修	● 養 形態機能学Ⅰ	1	● 養 形態機能学Ⅲ	1	● 養 疾病論Ⅱ	1	● 疾病論Ⅲ	1				
	必修	● 養 形態機能学Ⅱ	1	● 養 薬理学	2	● 看護情報学Ⅰ	1						
専 門 基 礎 科 目	必修	● 養 形態機能学Ⅲ	1	● 養 公衆衛生学	2	● 養 学校保健論	2						
	必修	● 養 看護学原論	2	● 養 ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	● 養 保健行動科学	2	● 養 看護情報学Ⅱ	1				
	必修	● 看護技術論	2	● 看護技術名論Ⅰ	1	● 養 社会福祉学	2						
専 門 教 育 科 目	必修	● 看護技術名論Ⅱ	1	● 看護技術名論Ⅲ	1	● 養 ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	● 養 看護実践論	1				
	必修	● 看護技術名論Ⅲ	1	● 看護技術名論Ⅳ	1	● 看護技術名論Ⅱ	1	● 養 家族看護論	2				
	必修	● 看護技術名論Ⅳ	1	● 看護技術名論Ⅴ	1	● 看護技術名論Ⅲ	1	● 養 母性看護援助論Ⅰ	2				
専 門 基 礎 科 目	必修	● 看護技術名論Ⅴ	1	● 看護技術名論Ⅵ	1	● 看護技術名論Ⅳ	1	● 養 小児看護援助論Ⅰ	2				
	必修	● 基礎看護学実習Ⅰ	1	● 基礎看護学実習Ⅱ	2	● 看護技術名論Ⅴ	1	● 養 精神看護援助論Ⅰ	2				
	必修	● 基礎看護学実習Ⅱ	2	● 基礎看護学実習Ⅲ	2	● 基礎看護学実習Ⅱ	2	● 養 在宅看護援助論Ⅰ	2				
専 門 教 育 科 目	必修	● 地域看護学概論	2	● 基礎看護学実習Ⅳ	2	● 養 基礎看護学概論	2						
	必修	● 老年看護援助論Ⅰ	2	● 基礎看護学実習Ⅴ	2	● 養 老年看護援助論Ⅰ	2						
	必修	● 成人看護援助論Ⅰ	2	● 基礎看護学実習Ⅵ	2	● 養 成人看護援助論Ⅰ	2						
養 護 教 諭 教 育 課 程 (卒 業 要 件 外)	必修	● 養 看護学原論	2	● 災 災害活動論	2			国 看護英語	1				
	必修	● 看護技術論	2					国 実践看護英語演習	1				
	必修	● 看護技術名論Ⅰ	1					(集中※2年後期または4年後期)					
履 修 条 件	必修	● 看護技術名論Ⅱ	1					公衆衛生看護学原論	2				
	必修	● 看護技術名論Ⅲ	1										
	必修	● 看護技術名論Ⅳ	1										
履 修 条 件	必修	● 看護技術名論Ⅴ	1										
	必修	● 看護技術名論Ⅵ	1										
	必修	● 基礎看護学実習Ⅰ	1										
履 修 条 件	必修	● 基礎看護学実習Ⅱ	2										
	必修	● 基礎看護学実習Ⅲ	2										
	必修	● 基礎看護学実習Ⅳ	2										
履 修 条 件	必修	● 基礎看護学実習Ⅴ	2										
	必修	● 基礎看護学実習Ⅵ	2										
	必修	● 教育心理学	2										
履 修 条 件	必修	● 教育課程論	2										
	必修	● 教育相談の基礎と方法	2										
	必修	● 養 養護概説	2										
履 修 条 件	必修	基盤教育科目：17単位											
	必修	専門教育科目：24単位											
	必修	基盤教育科目：2単位											
履 修 条 件	選択必修	基盤教育科目：6単位(「憲法」・「スポーツ実技」・「からだを動かす楽しみ」含む)											
	選択必修												
	選択必修												
履 修 条 件	履修単位数の上限	49単位											
	履修単位数の上限												
	履修単位数の上限												

【凡例】●：必修科目、災：災害看護プログラム科目、国：国際看護プログラム科目、※：フレッシュマンコア科目

3年次					4年次					卒業要件				
前期		後期			前期		後期							
履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位			
												5単位修得	必修を含めて 25単位以上修得	
												6単位以上修得		
												6単位修得		
												必修科目を 含めて 8単位以上修得		
												留学生のみ履修可能		必修を含めて 128単位以上修得
												全学共通科目は卒業要件単位に含まない		
												必修科目を含めて 25単位以上修得		
	保健医療福祉行政論	2				応用看護情報学 統合医療	1 2		疫学Ⅱ		2			
●	地域看護援助論	2	●	地域看護学実習	1	●	看護学研究法	2	●	卒業研究Ⅱ	1	必修科目を含めて 78単位以上修得		
●	母性看護援助論Ⅱ	2	●	母性看護学実習	2	●	総合実習	2						
●	小児看護援助論Ⅱ	2	●	小児看護学実習	2	●	卒業研究Ⅰ	1						
●	精神看護援助論Ⅱ	2	●	精神看護学実習	2	●	看護マネジメントⅡ	2						
●	在宅看護援助論Ⅱ	2	●	在宅看護学実習	2									
●	老年看護援助論Ⅱ	2	●	老年看護学実習Ⅰ	1									
●	成人看護援助論Ⅱ	2	●	老年看護学実習Ⅱ	2									
●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	成人看護学実習Ⅰ	2									
●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	成人看護学実習Ⅱ	2									
●	看護マネジメントⅠ	2	●	看護マネジメント実習	2									
						●	災 救急・災害看護論	2						
	リハビリテーション看護論 公衆衛生看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅱ	2 2 2	国	実践看護英語演習 (集中※2年後期または3年後期)	1	国	国際比較看護論 緩和ケア論 クリティカルケア論 公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護マネジメントⅠ	2 1 1 2 2 2 2	災	災害看護支援論 公衆衛生看護マネジメントⅡ 公衆衛生看護マネジメント演習	2 2 1			
							遠隔看護論 遠隔看護演習	2 1				自由科目は卒業要件単位 に含まない		
●	養 教職論	2				●	養 教育の方法	2	●	養 看護実習	5	26単位修得 (卒業要件外)		
●	養 健康相談活動	2				●	養 特別支援教育	1	●	養 教職実践演習(養護教諭)	2			
●	養 道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2												
専門教育科目：36単位 卒業要件外：6単位					専門教育科目：8単位 卒業要件外：10単位					148単位				
基盤教育科目：6単位（「憲法」・「スポーツ実技」・「からだを動かす楽しみ」含む）												6単位以上		
専門科目：2単位												4単位		
49単位					49単位					必要単位数：158単位以上				

③ 卒業に必要な単位数および卒業要件

卒業するためには4年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

卒業時には、看護学群のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）5項目について、4年間の学修成果を自己評価および教員評価します。この評価結果は、卒業判定の参照資料となります。

区分		配当単位数	必修単位数	選択必修	選択	必要単位数
基盤教育科目	導入科目	5	5	0	0	5単位
	実践基礎	4	0	0	必修以外に 6以上を 選択	指定しない
	情報統計	8	6	0		6単位
	グローバル コミュニケーション	17	6	0		6単位 (留学生：2単位以上 選択必修)
	社会科学	17	0	0		指定しない
	自然科学	16	2	0		2単位
	芸術・人文学	18	0	0		指定しない
	人間科学	9	0	0		指定しない
	留学生対象	留学生のみ8	留学生のみ7	0		0
	全学共通科目	4	0	0	0	(卒業要件外)
専門教育科目	専門基礎科目	39	25	0	0	25単位以上
	専門科目	114	78	0	0	78単位以上
		自由科目	3	0	0	0
養護教諭教育課程 (卒業要件外)		26	0	26	0	(卒業要件外)
合計		288	卒業要件単位数			128単位以上

④ 教育課程の特色

看護学群のカリキュラムは、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（厚生労働省）および看護学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省）で示されている看護学の体系を網羅しています。また、養護教諭教育課程は、教育職員免許法および同施行規則（文部科学省）に基づき編成しています。

看護学類では、全学生が看護師教育課程を学修します。

看護学類のカリキュラムは、基盤教育科目と専門教育科目で構成されています。

基盤教育科目

詳細は履修ガイドⅤ、基盤教育の章を確認してください。

専門教育科目

・専門基礎科目

専門基礎科目は、看護の基礎になる科目群です。

人を深く理解し、洞察できるように必要な科目、健康について多角的に理解するために必要な科目です。

・専門科目

看護学を専門的に学修する科目群です。

発達段階の特徴や看護活動の場の特徴などによる看護専門領域（基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学、在宅看護学、看護マネジメント、学校保健）に関する科目です。

また、専門科目では必修科目、選択科目の他、専門教育の知識を深めることを目的とした自由科目があります。

(1) 看護師教育課程

看護師教育課程は卒業に必要な必修科目と選択科目で構成されています。また、看護師国家試験受験資格に必要な教育課程です。看護学類科目関連図（看護師教育課程）p41、看護師教育課程科目配当表 p44-p45 を参照ください。

1年次では、基盤教育科目、専門基礎科目とあわせて、看護とは何かを学ぶ「看護学原論」、人の発達の特徴を捉えた看護を学ぶ「ライフステージ看護学概論Ⅰ」、看護学の基礎的知識と技術を修得する「看護技術論」などを学修します。2～3年次では、各看護専門領域に関する科目について学修します。また、3年次後期では、臨地実習において看護実践力を養います。4年次では、3年次までに学んだ看護学を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

また、卒業時に身につけていることが望まれる“看護職としての核となる能力”（「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」、一般社団法人日本看護系大学協議会）を主体的に獲得できるように、宮城大学での卒業時到達目標と関連科目を位置付けています。そして、卒業時到達目標に向かって主体的に学びを積み重ねていくために、卒業までの道のりの途中で自分の学びを振り返り、自己評価するツール「学びの振り返り」を用いています。

(2) 保健師教育課程

保健師教育課程は、保健師国家試験受験資格に必要な教育課程です。看護学類科目関連図（保健師教育課程）p42、保健師教育課程科目配当表 p46-p47 を参照ください。

4年次の公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修にあたっては、履修条件がありますので、履修での留意事項p53を参照ください。3年次後期に今後の学修についての見通しを含めたレポート提出および面接を行います。

また、保健師教育課程では、卒業時に修得しておくことが望まれる“保健師としての実践能力”（「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、厚生労働省）を主体的に獲得できるように授業科目を配置しています。

なお、保健師免許を取得後、申請により第一種衛生管理者、養護教諭二種免許状が取得できます。ただし、養護教諭二種免許状の申請を希望する場合は、「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作」4科目、各2単位の履修が必要です（教育職員免許法施行規則第66条の6）。本学では、外国語コミュニケーションと情報機器の操作に関する科目は必修科目に含まれていますが、加えて、1年次基盤教育科目「憲法」「スポーツ実技」「体を動かす楽しみ」を選択し、修得することが必要ですので留意してください。

(3) 養護教諭教育課程

養護教諭教育課程は、養護教諭一種免許状取得に必要な教育課程です。教員共通に求められる実践力、および養護教諭の専門性に関わる実践力（「看護学士課程で養成する養護教諭のコアコンピテンシーと卒業時到達目標」、一般社団法人日本看護系大学協議会養護教諭養成教育検討会）を主体的に獲得できるように、授業科目を配置しています。卒業要件に看護師教育課程の科目履修が必要ですので、看護師教育課程の科目に加えて、養護教諭教育課程の科目を履修する必要があります。看護学類科目関連図（養護教諭教育課程）p43、養護教諭教育課程科目配当表 p48-p49 を参照ください。

4年次の養護実習履修にあたっては、3年次後期に養護教諭一種免許状に必要な科目の履修状況、養護実習の履修意思について、確認を行います。

(4) 災害看護プログラム

災害看護プログラムは、災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える能力を養うプログラムです。4年間にわたり災害看護に関する学修を継続し、毎年その経験を重ねたポートフォリオを提出した者に災害看護プログラム修了証を授与します。

災害看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	構成科目
1年次	後期	災害活動論
3年次	前期	看護マネジメント I
4年次	前期	救急・災害看護論
	後期	災害看護支援論

※4年間にわたる災害看護に関する学修や経験を積み重ねたポートフォリオ作成のこと。

※卒業研究で災害看護をテーマとして取り組むことを推奨する。

(5) 国際看護プログラム

国際看護プログラムは、国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護を実践し、関係者と協働できるための基盤となる能力の修得を支援するプログラムです。4年間にわたり国際看護に関する学修をすべて修得すると国際看護プログラム修了証を授与します。実践看護英語演習では、海外研修を含みます。この海外研修にあたる下記の必要事項については、面接および書面にて確認します。

- ・原則として、TOEIC500点以上、またはそれに相当する英語力がある。
- ・保証人の同意がある（保証人の同意書の提出）。
- ・海外研修に伴う諸経費の負担が可能である。

国際看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	必ず履修する9科目	以下の指定科目から選択1科目以上
別途連絡	集中	実践看護英語演習	
1年次	前期	English Gateway I English Self-Expression I	国際関係論 中国語 I 韓国語 I スペイン語 I
	後期	English Gateway II English Self-Expression II	
2年次	前期	English for Academic Purposes English Expedition	
	後期	看護英語	Academic Writing Academic Reading University English
4年次	前期	国際比較看護論	

※卒業研究で国際看護をテーマとして取り組むことを推奨する。

5 履修での留意事項

履修に当たっては、次の事項に留意ください。

- ①時間割上、同一時限で履修できる科目は、1科目です。
- ②時間割上、選択科目と必修科目が重複する場合には、必修科目が優先となります。慎重に履修科目を選択してください。
- ③看護専門教育科目は、定められた開講年次（学年）で履修してください。
- ④看護学実習の実施時期は、次の通りです。長期休業期間であっても、実習が優先されます。
 - ・基礎看護学実習Ⅰ（1年次2月～3月上旬）
 - ・基礎看護学実習Ⅱ（2年次8月～9月）
 - ・領域別看護学実習（3年次8月～3月上旬）
 - ・総合実習（4年次5月下旬～6月上旬）
 - ・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ（4年次6月～9月）
 - ・公衆衛生看護学実習Ⅲ（4年次11月）
 - ・養護実習（4年次8月～9月）
- ⑤看護学実習の履修にあたっては、以下の履修条件を満たす必要があります。

授業科目	配当年次	履修条件
基礎看護学実習Ⅰ	1後	看護学原論を修得していること
基礎看護学実習Ⅱ	2前	基礎看護学実習Ⅰ、看護技術論、看護技術各論Ⅰ、看護技術各論演習Ⅰを修得していること
母性看護学実習	3後	母性看護援助論Ⅱを修得していること
小児看護学実習	3後	小児看護援助論Ⅱを修得していること
成人看護学実習Ⅰ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
成人看護学実習Ⅱ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
老年看護学実習Ⅰ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
老年看護学実習Ⅱ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
精神看護学実習	3後	精神看護援助論Ⅱを修得していること
在宅看護学実習	3後	在宅看護援助論Ⅱを修得していること
地域看護学実習	3後	地域看護援助論を修得していること
看護マネジメント実習	3後	看護マネジメントⅠを修得していること
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	3年次の各領域別実習の成績が「良」以上を修得していること
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	3年次の各領域別実習の成績が「良」以上を修得していること
公衆衛生看護学実習Ⅲ	4後	3年次の各領域別実習の成績が「良」以上を修得していること

6 履修モデル

凡例 ●：必修 ○◎：選択科目 ★：資格取得に関連する科目 ※：フレッシュマンコア科目 ◇主要科目

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	授業形態	主要科目	教育課程			プログラム		卒業要件		備考	
						看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2		
導入科目	スタートアップセミナーⅠ ※	1前	2	講義	◇	●	●	●						
	スタートアップセミナーⅡ ※	1後	2	講義	◇	●	●	●						
	地域フィールドワーク ※	1前	1	講義	◇	●	●	●						
情報統計	コンピューターリテラシー ※	1前	2	講義	◇	●	●	●						
	情報化社会と技術 ※	1後	2	講義	◇	●	●	★						
	基礎統計学Ⅰ ※	1後	2	講義	◇	●	●	●						
	基礎統計学Ⅱ	2前	2	講義										
グローバルコミュニケーション	English GatewayⅠ ※	1前	1	演習	◇	●	●	★	●			6単位必修 留学生は2単位以上選択必修		
	English Self-ExpressionⅠ ※	1前	1	演習	◇	●	●	★	●					
	English GatewayⅡ ※	1後	1	演習	◇	●	●	★	●					
	English Self-ExpressionⅡ ※	1後	1	演習	◇	●	●	★	●					
	English for Academic Purposes ※	2前	1	演習	◇	●	●	★	●					
	English Expedition ※	2前	1	演習	◇	●	●	★	●					
	University English	2後	1	演習					○					
	Academic Writing	2後	1	演習					○					
	Academic Reading	2後	1	演習					○					
	中国語Ⅰ	1・2前	1	演習					○			国際看護プログラム履修者は7科目の中から1科目以上修得		
中国語Ⅱ	1・2後	1	演習					○						
韓国語Ⅰ	1・2前	1	演習					○						
韓国語Ⅱ	1・2後	1	演習					○						
スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前	1	演習					○						
スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後	1	演習					○						
国際日本学/Japanology	1・2後	2	講義											
社会科学	憲法	1・2後	2	講義				★						
	政治学概論	1・2後	2	講義										
	国際関係論	1・2前	2	講義					○					
	社会と経済	1・2後	2	講義										
	現代東北社会論	1・2後	2	講義										
	社会の諸相	1・2後	2	講義										
	社会と哲学	1・2前	2	講義										
	人口学概論	1・2前	1	講義										
文化人類学概論	1・2前	2	講義											
自然科学	数理学	1・2後	2	講義										
	生命科学	1・2前	2	講義										
	環境学概論	1・2後	2	講義										
	地球と宇宙	1・2後	2	講義										
	数学概論	1・2前	2	講義										
	物理概論	1・2前	2	講義										
	化学概論	1・2前	2	講義										
生物概論	1・2前	2	講義	◇	●	●	●							
芸術・人文学	現代メディアカルチャー論	1・2前	2	講義										
	美術	1・2後	2	講義										
	音楽	1・2前	2	講義										
	美術演習	1・2前	1	演習										
	音楽演習	1・2後	1	演習										
	文学	1・2後	2	講義										
	世界の歴史と文化	1・2前	2	講義										
	日本の歴史と文化	1・2前	2	講義										
	東北の歴史と文化	1・2前	2	講義										
人と宗教	1・2前	2	講義											
人間科学	心理学	1・2前	2	講義										
	健康科学	1・2前	2	講義										
	スポーツ実技	1・2前	1	実習				★						
	体を動かす楽しみ	1・2後	1	実習				★						
	スポーツ科学	1・2前	1	講義										
	福祉入門	1・2後	1	講義										
食と社会	1・2前	1	講義											
実践基礎	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義										
	アントレプレナー基礎	集中	2	講義										
留学生対象	日本語Ⅰ	1前	1	演習									留学生は必修	
	日本語Ⅱ	1後	1	演習									留学生は必修	
	日本語Ⅲ	2前	1	演習									留学生は必修	
	日本語Ⅳ	2後	1	演習									留学生の選択科目	
	日本事情Ⅰ	1前	2	講義									留学生は必修	
日本事情Ⅱ	1後	2	講義									留学生は必修		
全学共通科目	グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習									卒業要件単位に含まない	
	学外研修	1・2集中	2	演習									卒業要件単位に含まない	

科目 区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	主 要 科 目	教育課程			プログラム		卒業要件		備 考
						看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区 分 ご と の 要 件 1	区 分 ご と の 要 件 2	
専門基礎科目	人間発達学	1前	2	講義	●	●	●			必修科目を含めて 25単位以上修得			
	臨床心理学	1後	2	講義	●	●	★						
	保健行動科学	2前	2	講義									
	医療倫理学	1前	2	講義	●	●	●						
	人間関係論	1後	2	講義	●	●	●						
	形態機能学Ⅰ	1前	1	講義	●	●	★						
	形態機能学Ⅱ	1前	1	講義	●	●	★						
	形態機能学Ⅲ	1後	1	講義	●	●	★						
	薬理学	1後	2	講義	●	●	★						
	栄養学	2後	2	講義	●	●	★						
	社会福祉学	2前	2	講義									
	公衆衛生学	1後	2	講義	●	★	★						
	疫学Ⅰ	2後	2	講義	●	★	★						
	疫学Ⅱ	4後	2	講義		★	★						
	保健医療福祉行政論	3前	2	講義		★							
	学校保健論	2前	2	講義			★						
	病態学	2前	2	講義	●	●	★						
	疾病論Ⅰ	2前	1	講義	●	●	★						
	疾病論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	★						
	疾病論Ⅲ	2後	1	講義	●	●	★						
統合医療	4前	2	講義										
看護情報学Ⅰ	2前	1	演習	●	●	●							
看護情報学Ⅱ	2後	1	講義										
応用看護情報学	4前	1	講義										
専門教育科目	看護学原論	1前	2	講義	●	●	★			必修科目を含めて 78単位以上修得			
	看護実践論	2後	1	講義	●	●	★						
	ライフステージ看護学概論Ⅰ	1後	2	講義	●	●	★						
	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2前	2	講義	●	●	★						
	地域看護学概論	2前	2	講義	●	●	★						
	リハビリテーション看護論	3前	2	講義	●	●	★						
	看護学研究法	4前	2	講義	●	●	●						
	国際比較看護論	4前	2	講義				○					
	家族看護論	2後	2	講義	●	●	★						
	災害活動論	1後	2	講義					○				
	救急・災害看護論	4前	2	講義			★		○				
	災害看護支援論	4後	2	講義					○				
	看護英語	2後	1	講義					○				
	実践看護英語演習	集中	1	演習					○				
	看護技術論	1後	2	講義	●	●	★						
	看護技術各論Ⅰ	1後	1	講義	●	●	●						
	看護技術各論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	●						
	看護技術各論Ⅲ	2前	1	講義	●	●	★						
	看護技術各論演習Ⅰ	1後	1	演習	●	●	●						
	看護技術各論演習Ⅱ	2前	1	演習	●	●	●						
	看護技術各論演習Ⅲ	2前	1	演習	●	●	●						
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●						
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●						
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★						
	小児看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	★						
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●						
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●						
	成人看護援助論Ⅲ	3前	2	講義	●	●	●						
	老年看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●						
	老年看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●						
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★						
	精神看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●						
	地域看護援助論	3前	2	講義	●	●	●						
	看護マネジメントⅠ	3前	2	講義	●	●	●		●				
看護マネジメントⅡ	4前	2	講義	●	●	●							
在宅看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●							
在宅看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●							
緩和ケア論	4前	1	講義										
クリティカルケア論	4前	1	講義										
卒業研究Ⅰ	4前	1	演習	◇	●	●							
卒業研究Ⅱ	4後	1	演習	◇	●	●							

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	授業形態	主要科目	教育課程			プログラム		卒業要件		備考
						看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	
専門教育科目	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1	実習	◇	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2	実習	◇	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	母性看護学実習	3後	2	実習	◇	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	小児看護学実習	3後	2	実習	◇	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	成人看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	精神看護学実習	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	地域看護学実習	3後	1	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	在宅看護学実習	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	看護マネジメント実習	3後	2	実習	◇	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	総合実習	4前	2	実習	◇	●	●	●					
	公衆衛生看護学原論	2後	2	講義				★					
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	3前	2	講義				★					
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	3前	2	講義				★					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	4前	2	講義				★					
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前	2	講義				★					
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	4前	2	講義				★					
	公衆衛生看護マネジメントⅠ	4前	2	講義				★					
	公衆衛生看護マネジメントⅡ	4後	2	講義				★					
	公衆衛生看護マネジメント演習	4後	1	演習				★					
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	1	実習	◇			★					別に定める履修条件を満たしていること
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	3	実習	◇			★					別に定める履修条件を満たしていること	
公衆衛生看護学実習Ⅲ	4後	1	実習	◇			★					別に定める履修条件を満たしていること	
遠隔看護論	4集中	2	講義									卒業要件単位に含まない	
遠隔看護演習	4集中	1	演習									卒業要件単位に含まない	
養護教諭一種免許状に係る科目	養護概説	2後	2	講義				★					
	健康相談活動	3前	2	講義				★					
	教職論	3前	2	講義				★					
	教育学概論	2前	2	講義				★					
	教育心理学	2前	2	講義				★					
	教育課程論	2後	2	講義				★					
	教育の方法	4前	2	講義				★					
	教育相談の基礎と方法	2後	2	講義				★					
	特別支援教育	4前	1	講義				★					
	道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	3前	2	講義				★					
	養護実習	4後	5	実習				★					
教職実践演習(養護教諭)	4後	2	演習	◇			★						

◇「主要授業科目」とは、所属学群(学類)の学位に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目であり、3つのポリシーとの関係等を踏まえ設定しています。

MYU CURRICULUM GUIDE 2026